

第5回 大山町議会定例会会議録（第3日）

平成29年6月23日（金曜日）

議事日程

平成29年6月23日 午前9時30分開議

1. 開議宣告

日程第1 一般質問

通告 順	議席 番号	氏名	質問事項
9	10	近藤 大介	1. これからのまちづくりについて 2. 町政の諸課題について
10	6	大杖 正彦	1. 大山町観光局のあり方について 2. 郷土を学ぶ授業について
11	9	野口 昌作	1. 竹口新町長の所信表明の政策実行について 2. 特産大山ブロッコリーの生産拡大についての政策を 3. 道路の側溝、覆いかぶさる枝、表示等の適正な維持管理について
12	5	大原 広巳	1. 少子化対策について 2. 企業誘致について
13	13	岡田 聰	1. 町長の政治姿勢を問う

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（16名）

1番 森 本 貴 之	2番 池 田 幸 恵
3番 門 脇 輝 明	4番 加 藤 紀 之
5番 大 原 広 巳	6番 大 杖 正 彦
7番 米 本 隆 記	8番 大 森 正 治
9番 野 口 昌 作	10番 近 藤 大 介
11番 西 尾 寿 博	12番 吉 原 美 智 恵
13番 岡 田 聰	14番 野 口 俊 明
15番 西 山 富 三 郎	16番 杉 谷 洋 一

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 手 島 千津夫 書記 前 田 智加子

説明のため出席した者の職氏名

町長	竹 口 大 紀	教育長	鷺 見 寛 幸
副町長	野 間 一 成	教育次長	佐 藤 康 隆
総務課長	野 坂 友 晴	幼児・学校教育課長	森 田 典 子
総務課参事	金 田 茂 之	人権・社会教育課長	西 尾 秀 道
税務課長	遠 藤 忠 敏	企画情報課長	井 上 龍
住民生活課長	山 岡 浩 義	企画情報課参事	大 黒 辰 信
建設課長	大 前 満	水道課長	野 口 尚 登
農林水産課長	末 次 四 郎	農業委員会事務局長	田 中 延 明
福祉介護課長	松 田 博 明	健康対策課長	後 藤 英 紀
観光商工課長	持 田 隆 昌	会計管理者	岡 田 栄
地籍調査課長	白 石 貴 和	代表監査委員	石 黒 澄 男

午前9時25分開議

○議長（杉谷 洋一君） 皆さん、おはようございます。

本日の会議を開きます前に、町民の皆さんに議員討論会の開催について御案内いたします。

今回の討論会のテーマは「産業振興について」に決定しました。期日は来週月曜日、6月26日の午後1時から2時間程度を予定しています。当日は大山チャンネルで生中継もいたしますが、傍聴にぜひお出かけいただきますようお願いいたします。

あわせて、議員と語る会の開催につきましても御案内いたします。7月3日から11日にかけて、議員と語る会を開催します。町内6会場にて町民の皆さんの御意見、御要望をいただき、しっかり語り合える場といたしたいと思います。多くの皆さんの御参加をお待ちしています。

続きまして、ただいまの出席議員は16人です。定足数に達していますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1 一般質問

○議長（杉谷 洋一君） 本日は、昨日に引き続き一般質問を行います。

10番、近藤大介議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。それでは、一般質問2日目になりました。近藤大介です。

新しく町長になられた竹口町長に一般質問をさせていただきます。

きのう1日目の町長の一般質問、議席で拝見させていただいて、非常にわかりやすい簡潔明瞭な答弁をされるなど、わかりやすく大したものだなと感心しながら、一般質問のやりとりを拝見しておりました。あの、終わりましたから、幾つか一般の町民の方からですね、同じような意見、感想をいただいております。県下で一番若い町長ということもあって、町民さんの関心も極めて高いと思っております。これから4年間、竹口町長がどのように大山町政を進めていかれるか、まちづくりの考えについてきょうは伺っていきたいと思います。大きく分けて2項用意しております。

通告に従いまして、まず1点目、これからの大山町のまちづくりについてということについて伺っていきたいと思います。簡潔に質問の要点を述べさせていただきます。

1点目、どのようなまちづくりをこれから目指していかれるか。

2点目、昨年、大山町では総合計画、未来づくり10年プランを策定いたしておりますが、このプランを町政にどう生かしていく考えか。

3点目、きのうの一般質問でも題、話題として取り上げられておりますが、大山町の自主組織の取り組み、自治を考える上で非常に大きな課題だと思っております。この自主組織の取り組みを今後どう進めていかれる考えか。

4点目、現代の地方自治にとって住民参画と情報公開ということは非常に欠かせない重要なポイントだと思います。この住民参画と情報公開について、竹口町長はどのように考えておられるか。

5点目、昨年来、大山町の行政でさまざまな不祥事が起こりました。NPOの関連の問題だったりとか、商工会へ委託している事業の問題など大きく取り上げられ、選挙の争点にもなったところがございます。こうした不祥事を通じてですね、大山町の行政に対しての信頼感が揺らいでいるというふうに考えます。竹口町長として行政の信頼回復にどのように取り組んでおられるか。

以上の点について御答弁をお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 一般質問2日目、よろしく申し上げます。

近藤議員の御質問にお答えしたいと思います。

冒頭に、厳しい質問をいつもされる近藤議員からお褒めの言葉がありましたので、きっとこれは油断をさせておいて後で厳しい追及が来るんだなというふうに思っております。

す。

それじゃこれからのまちづくりについて、1番目のどのような町を目指すのかとの御質問にお答えをいたします。

私の選挙公約である働く元気世代を地域に残すための政策の実現、教育・子育て環境の充実、魅力ある雇用の創出、農林水産商工業強化についてスピード感を持って対処し、子や孫の世代が住み続けられる大山町をつくっていきたくと考えております。

2番目の10年プランをどう生かすかとの御質問であります。基本理念の「楽しさ自給率の高いまちへ」の実現に向けて、町内で楽しさがどんどん生まれてくる、生まれていくような施策を展開していきたくと考えております。

3番目の地域自主組織の取り組みを今後どう進めるのかとの御質問であります。米本議員の御質問のときにお答えいたしましたとおり、今後のまちづくりを進めていく上で必要不可欠な組織であると考えております。地域自主組織に担っていただける事業については積極的に推進していき、行政と住民が協働したまちづくりを進めていきたくと考えております。

4番目の住民参画と情報公開についての考えはどの御質問であります。住民参画と情報公開は自治の基本であると考えています。住民参画につきましても、住民の意見聴取といった従来の住民参加にとどまらず、多様な住民意見を反映し住民の視点を生かした政策を行っていきたくと考えております。

また、情報公開につきましてもできる限り住民の皆さんへお知らせをし、透明性のある行政を目指したいと考えております。

5番目の不祥事で失った行政の信頼回復にどう取り組むかとの御質問であります。情報公開を進め再発防止の対策チームからの提言を踏まえつつ、今後の政策を一つずつ着実に実行していくことで信頼の回復につなげていきたくと思っております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。ありがとうございます。

非常に端的でわかりやすい言葉でわかりやすく語っていただきました。わかりやすいということは、やっぱり大事なんじゃないかなと思います。ある意味これからのまちづくりのビジョンが明確になることによって、町民もじゃそういう形で、方向で町政が進んでいくのであれば自分はこういうことを要望したいとか、こういうことを考えてほしいとかいう意見も言いやすくなりますし、あるいは明確になっているからこそそういう方向は違うのではないかなとか、自分はこういう考えを持っているとかいう意見も言いやすいのではないかなというふうに思ったりしております。

個人的には、大山町は皆さん言われるようにさまざま資源、歴史的な資源であったり文化的な資源があったり、あるいは豊かな自然に育まれた農林水産業があったり、それ

を生かした観光があったりと非常に多様な資源があるので、もうそれをまちづくりに生かさない手はないはずであってですね、そういうことをきちんとやっていけばやはり生まれ育った子供、若い世代が地元に残れる、外からでもUターン、Iターンで帰ってこれる、そういうようなまちづくりができるのではないかと。

ただ、現状それが十分にできていないということは、やはり自分たちの周りの身近な資源をやはり自分たち町民、私も含め町民がよく理解できていなかったり、理解していても利活用の仕方がよくわからなかったりと、そういう側面があるんだろうなと思います。そういったところを現状打破するために、政策的なね、ことで若者を町外からでも呼んでくれるような施策必要かと思います。

ただ、一方でやはり高齢者の方々だったりとかからすれば、あの、高齢者施策はどうなんだとか、そういったような不安もあったりすると思います。そのあたり、一番大事なところは働く現役世代を地域に残すための政策をやっていくというのが一番だとしてですね、それ以外に対しての配慮もやっぱり必要じゃないかなというふうに思ったりするんですけども、そのあたりについての考え方を少し説明していただきたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

若い世代が大山町にふえるような施策をするのはいい。しかしながら、その高齢者に対する施策はどうかという御質問でしたけれども、まず高齢者の方々に対して政策としましては、公共交通が使いにくいというような声よく耳にします。そういったニーズもあろうかと思いますので、昨日も一般質問等でいろいろとお答えをしましたが、公共交通をより使いやすいものに見直しを進めていきたいというふうに考えております。

そのほか、その、医療等はですね、近藤議員の次の質問等にも出てきますのでまたそのときに議論させていただきたいと思いますが、福祉、医療に関しましても現状で困っておられるところ、あるいは不便に感じておられるところ、そういったところは順次見直していきたいと思っておりますし、幾ら若い世代、働く現役世代を大山町に呼び込んだとしても、その方たちも結局いずれは高齢者になるわけですし、先を見据えた施策を今から展開していくことが大事かなというふうに思っております。以上です。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） わかりました。

ただ、あの、一番基本にするですね、移住定住といいますか、若い世代にとって魅力のあるまちづくり、それをその政策的に実現していくその成果をどう評価するかというところは大事なところではないかと思うわけですけども、そういう働く現役世代を地域に残すための政策の実現、その成果を町長はこれから3年先だったりとか、任期が終

わる4年先だったりとか、どういった形で、あの、評価できるような形を考えておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 移住定住の政策の成果の評価に関しましては、一番わかりやすいように数字でですね、人口の増減、特に自然減、自然増だけじゃなくてですね、のところではなくて、社会減、社会増のところはどういったように変化していったのかというところを見ていきたいと思ひますし、そのほか基準となるような指標を定めて成果が確認できるようにしたいと思ひます。これは、その、行政側が、あるいは私が評価するということもありますし、その議会側も、あるいはその住民さんが客観的に見ても成果が出たな、この政策は効果があったなというふうに判断ができる、あるいはこれは効果がなかったなというような判断ができる客観的な数字を何らかの形で示したいと思ひております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 合併してからですね、1年間に生まれる子供の数、出生数というのはずっと減少傾向で、ここ10年あたりは100人前後を行ったり来たりみたいな感じで、100人を割り込んだ、1年間に生まれる赤ちゃんの数が100人を割り込んだ年も3回、3年ほどありました。

冒頭、町長が言われたですね、子や孫の世代が住み続けられる大山町であるためには、やはり安定してやはり子供が生まれる地域でなければならないと思ひます。今、大山町には小学校が4つ、中学校が3つあるわけですけれども、この小・中学校を安定して維持していくためには、恐らく最低でも120人、できれば150人ぐらいの1年間の生まれる子供、児童がないとなかなか健全に維持するのが難しいのではないかなと思ひます。そういう意味では、やはり目標としてですね、毎年目標としては150、できれば120前後、最低でもとにかく100を切らない、それぐらいの子供が生まれるような町というのをひとつ目安にですね、そうであるように施策で、政策で支援していく。そういうことが必要じゃないかと思ひますけれども、どう思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。そのような政策が必要だと思ひております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。じゃそういう格好でね、取り組んでいただきたいと思ひますけれども、一つ、あくまでも一つのそういう指標として年間の出生数ということもあろうかと思ひますけれども、まちづくり、さまざまな分野、本当に人間の生

まれたところから亡くなるころまでさまざまな分野でまちづくりがあるわけですが、その基本的なところを町の行政として計画しているのが10年プランであります。

冒頭、町長答弁で大山町内で楽しさがどんどん生まれていくような施策を展開していきたいというふうにおっしゃっておられるわけですが、行政のほうでこれ楽しいだろうと、これで楽しめっていう押しつけても全く意味がないわけであって、住民さんみずからが楽しいと思って初めてその楽しいという意味がある、楽しさの自給率も意義があるのではないかなと思うんですけれども、私、あの、行政の政策の何ちゅうんですかね、指標として楽しさということが出てきたというのはもう非常に画期的なこと、大げさに言うと革命的なことではないかなというふうにすら思います。ずっとこれまで経済的な豊かさだけでは、経済的な豊かさばかりを追い求めてきた経済があったわけですが、そういった経済もちょっと行き詰まりを見せてですね、そうじゃない心の豊かさをやはり求めるような社会に日本もなってきていると。そういう中で、大山町は楽しさというものを住民自治の一つの指標として大きく掲げたと。そこは大事なことだと思うんですが、でもそれはやはり住民の皆さんに広く意識されて初めて意味のあることじゃないかなと思います。ただ、ああそういえば何か町報にそんなことが書いてあったなぐらいではやっぱり意味がない。やはり多くの町民の方に自分にとって楽しさとは何だろう、自分にとって楽しさ自給率とは何だろうということを意識してもらって初めてこの計画の意味があるのではないかなと思うわけですが、そういったことを踏まえてですね、どのようにして楽しさ自給率を高めていきたいと思っておられますか、答弁をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。楽しさ自給率をどのように高めていくかということですが、この楽しさという定義もなかなか難しいのかなと思いますが、先ほど近藤議員がおっしゃったように人から押しつけられるものというのは、もうほとんど大半楽しくないというふうに思います。自発的に何かをすることが楽しさなのかなというふうに思います。

まちづくりに関しましても、今までは行政が中心となってやっていたようなところもありますが、やはり地域あるいは自主組織、もっと言えば個人個人一人一人がまちづくりを自発的に進めていくような町にしていけば、おのずと楽しさ自給率が上がっていくのかなというふうに思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。おっしゃるとおりだと思うわけですが、問題は どうやって、どうやって住民の皆さんが自発的にまちづくりに参画できるような町にするのか。どうやってやるかということが大事じゃないかなと。そこで、行政サイ

ドのやはり仕掛けというのが必要になるんじゃないかなと思うんですけども、どうやって今、先ほど町長がおっしゃったことを実現していきましょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。現状で具体的にどうやって楽しさ自給率を上げていくかというところ、詳細までまだ考えが至っておりませんので、今後考えていきたいなというふうに思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） ぜひね、町長がというよりも、あの、本当にこれ大山町行政の職員の皆さん全員で考えていただきたいなというふうに思うんですね。主管は企画情報課が担当なのかもしれませんが、教育長もきのうおっしゃってましたけども、まさにこれ生涯学習のいいテーマじゃないかと思います。そういったところばかりではないです。そして、建設課にとって楽しさ自給率の高い建設行政とは何なのか。ぜひね、例えばですよ、建設課で考えてもらってもいいんじゃないかなと。例えばね、ボランティアロードとかありますけれども、地域や団体で自分たちの身近な道路を守っていこう、美化していこう。そういうことをそういう道路の延長距離を長くすることが、ひょっとしたら楽しさ自給率が高まる取り組みかもしれない。ほか、税務課でもどうなんでしょうね。税務課にとっての何か納税が楽しくなるような、ひょっとしたらあるかもしれない。やっぱりそういうところを自分のね、分野で住民が主体的に参画できて楽しさを、あるいは楽しさという言葉じゃなくてやりがいであったり生きがいであったり、そういった言葉で置きかえてもいいんじゃないかと思うんですけども、そうなるような行政のアイデアというのをね、ぜひ考えていただきたいと思うし、住民の皆さんにね、何かおもしろいアイデアを募られるのもまたいいんじゃないかなというふうに思ったりします。そういったところ、職員研修の一つのやり方としても使えるんじゃないかなというふうに思ったりしますが、こういうことをね、ぜひ早急に取り組んでいただきたいなと思いますけど、町長、どうでしょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。さまざまな御提言いただきました。そういうふうにはですね、一つ一つ今の仕事等を見直しながら楽しさ自給率を上げるような工夫をしていくのが必要だと思います。

鳥取県は県民の元気を出していこうということで、元気づくりということで前の企画みたいなのが今元気づくりを担当する課としてやったりしていますけれども、ある面でその楽しさ自給率を上げるような取り組みを強化していくのも行政内部としては必要なのかなというふうに思っております。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。あの、住民が主体的にやるものでなければ、やはりいいものはできないし長続きもしないと思います。一つ冒頭伺いました自主組織の取り組みも、やはり同じことだと思えます。きのう米本議員も質問しておられましたけれども、この自主組織の取り組みが現状の大山町では少しちょっと停滞しているような気がいたします。町長も積極的に推進していくというお考えのようではございますけれども、なかなか現状打破できない、もう一つ取り組みが前に進んでいかない原因、どのように町長は分析しておられますか。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。自主組織の取り組みについてですけれども、やはり方向性が明確にわかっていないとなかなか進める方向もそれぞればらばらで、何か進めてるようでも進んでいるように見えないというのが現状なのかなというふうに思いますので、自主組織を今後どのようにどのような方向で進めていくのか。これは押しつけになってはいけませんけれども、ある程度の方向性は示していきながら自主組織の組織づくりを進めていきたいというふうに思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。私もそう思います。幾つかの自主組織の役員さんだったり関係者の方と何度もお話しする機会がありましたけれども、そういった関係者の方もですね、やはり町の、大山町自体の行政の基本的な方針がなかなか見えない、定まっていないように感じるの、自分たちも迷うところがあるというようなことを何度も聞いたことがあります。ぜひですね、あの、既に自主組織ができているところはそういったところの役員さん方、できていないところについては協議会のね、関係者の方々、個々にだったり、あるいは一堂に会しながら意見も聞いた上でですね、これからの取り組みがどうあるべきか、やはり住民に広くわかりやすい形で方針を示していただきたいと思えます。これもできるだけ早急に取り組むべき課題だと思いますが、どうでしょう、町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） なるべく早急に取り組んでいきたいと思っております。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。ええ、そういった形で住民の声をやっぱり広く聞いていただくことが非常に大事だと思いますし、先ほど住民参画について町長のほうから住民参画と情報公開は自治の基本であると。本当にそうだと思います。その上で、もうただ意見を聞くだけじゃだめなんだと。そこからさらに踏み込んで多様な住民の意見を反映し、住民の主体化した政策を行うと。そういったところが大事じゃないかなと。

住民がそこに参画していくということが大事なんだと思います。

言葉だけでなく、どのような形で竹口町政として住民参画を考えているのか。今、何か考えていらっしゃるアイデアなりあればぜひお聞かせいただきたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。具体的にこれというのはないんですけども、住民参画というのはやっぱり住民参加とは違ひまして、ただ意見を言うだけ、聞くだけということではなくてですね、実際に住民さんがまちづくりあるいは行政等にもこう一部公共の動きなんかにも加わっていただきながら、まちづくりを進めていくことが住民参画だと思います。そのための手法としましては、今後検討していきたいと思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。ぜひね、そういう町民がただ意見を言う、あ、意見を言うところももちろん大事ですし、意見を言っていたくことも大事、そしてさらにそこから参画していただくところまでの仕組みをですね、いろんな場面で実行していただきたいなと思います。

そしてですね、そういったことを総合してですね、合併して我が町大山町12年になるわけですけども、振り返ってみますにこの12年間、合併してよくなったところもあるのかもしれませんが、住民の皆さん本当に合併してよかったなっていうまちづくりが本当にできているのか、私はちょっと疑問に思うところもあります。この12年間の合併後のまちづくりについて、竹口町長としてはどのように考えておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。合併後の大山町ですけども、合併したメリットを徐々に感じつつあるような段階にあるとは思いますが、やはりまだまだ合併したメリットを感じておられない町民さんも多くいらっしゃると思いますので、大山町合併してよかったなというふうに思ってもらえるようなまちづくりを今後もしていきたいと思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。本当にね、いや本当に合併してよかったなということをより多くの住民の皆さんに実感できるような施策をお願いしたいなと思うし、それはひょっとしたら必ずしも具体的にこういう施策をしたということでもですね、やはり住民さんからのさまざまな意見を丁寧に聞き丁寧に答える、それだけでもひょっとしたら満足感は上がるのかもしれない。

そういったことを考える中でですね、町長、せんだってからですね、例えば今定例会

でも保育料の無料化に向けた取り組みだったり通学費の助成など、矢継ぎ早に施策の提言もされていてですね、それは町長の公約でもあり、そういうところに期待して竹口町長にこの間の選挙で1票を投じられた方ももちろんあるんだろうとは思いますが、私が思うに必ずしもそういう人ばかりではなくてですね、やはり漠然とだけれども今の大山町の行政に対しての不満、特にせんだってといえますか、去年から不祥事なども続いたということの不信感、不満もあったとは思いますが、やはり12年間の合併後のまちづくり、今のままで本当にいいのかなと。ちょっと立ちどまって、今後の方針を考え直してもいいんじゃないのかなという思いも一定程度含まれている選挙結果だったのではないかなというふうに私は思っております。そういう意味ではですね、合併後のさまざまな事業、これを機会にですね、全部、全部といえますか点検しながら、どういう施策が住民にとって非常にいい施策であり、改善すべき施策は何なのか、あるいはもうそろそろ役割を終えた事業もあるのではないかな。一から点検し直すいい時期ではないのかなとも思ったりもします。そういったちょうど私たちがちょっと何かこの辺おかしいな、体の一部がおかしいなというときに人間ドックとか精密検査するようにですね、大山町行政の定期点検といえますか、してもいいんじゃないかなと思うんですが、どのように思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。行政への不満があってこのたびの選挙結果になったというふうなお話もありましたけれども、住民の皆さんが全てその政策に票を投じたというふうなところは決してないというふうに近藤議員御指摘のとおりだと思います。漠然とした不満で票を投じられた方もあるでしょうし、全ての住民さんが政策に対して不満、満足ということではなくて、例えば役場に行ったときの対応がよかったとか、出会ったときに何か話を聞いてくれたとか、そういったところで住民さんの行政に対する満足度とか信頼感というのは変わってくるのかなというふうに思っております。

合併後の事業を検証したらどうかという話がありましたけれども、これは今後やっていきます。当然ですね、合併してから今12年たちまして、12年前と状況が変わっているところもあるのに継続されている事業等ももしかしたらあるかもしれませんし、今その大山町のみならずですね、行政が行う施策というのはなかなか効果が検証されていない、あるいはされづらいものが多いと思います。何となくこれをやったら町民さんのためになるんじゃないかとか、こういうことをやったら喜ばれるんじゃないかというような漠然としたもので、数値的な検証というのが全くと言っていいほどなされてないというのが現状だと思いますので、どういう政策をしてどういう効果が出たのかをしっかりと検証していきたいなというふうに思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。そういう検証をぜひしっかりやっていただきたいと思ひますし、また町長もせんだってからさまざまな新規事業の財源として将来的にはその行政経費をスリム化する、あるいは無駄を見直すことによって捻出するようなこともおっしゃっています。ですので当然事務事業の見直しというのは必ずされるんだろうなとは思ひますけれども、その際にですね、ぜひ町長お一人のお考えではなく、もちろんね、役場だけの考えではなく、その事務事業の見直しに当たってはできるだけそこに住民の参加、参画ね、意見も取り入れる形での事業の評価、見直しをすべきだと思ひますが、そのようなお考えはありますか。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。そこに事業の検証等に住民さんの参画はということですがけれども、あの、当然あっていいのかなというふうに思っております。あの、行政組織の中で見直しをすることもしますし、議会のほうでも検証していただく。そして何よりも、住民さんにも直接的に検証していただくような場を設けることが大事かなというふうに思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。この項、最後に不祥事のことについて信頼回復取り組んでいくという前向きな意欲も冒頭お聞きしましたけれども、先ほど来ずっと話していく説明、済みません、情報公開であったりとか丁寧な説明を通じてですね、やはり住民の行政への信頼も取り戻していける。そして、さらによりよいまちづくりも進められていく。本当にその上で欠かせないのが、くどいようですが住民参画だったり情報公開だと思ひます。これからの4年間、そういうことを本当に大切に行政を進めていただきたいと思ひますし、そういうお考えを再度述べていただいてこの項を終わりにしたいと思ひます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。4年後にですね、しっかり町政運営してきたなというふうに思われるように頑張っていきたいと思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 次の項へ行きます。大きな意味では今まで申し上げたまちづくりと同じことになるのだと思ひますけれども、大山町の中ですね、さまざまな諸課題について町長のお考えを聞きたいと思ひます。

まず1点目、健康、医療についてということですが思ひますけれども、大山町では町民総健康づくり運動を現在進めています。町民の健康を守っていく上でもですね、この事業を今後どう進めていくか。関連して、大山診療所の経営改善、利活用についてどのよう

に考えておられますか。

2点目、大山町は県下でも一番の農業町であり、また豊かな海を抱える、港を抱える漁業の町でもあります。農業振興、漁業振興について今後どのように取り組んでいかれるか。あわせて、これらの事業の後継者育成、後継者支援についてのお考えを聞きたいと思えます。

3点目、大山恵みの里公社改革に取り組むということを所信表明でもおっしゃいましたが、竹口町長としてどのように改革をしていく考えか。

4点目、町長の政策、公約でも言っておられましたけども、買い物弱者への支援に取り組むということでした。具体的にどのように取り組む考えかお聞きしたいと思えます。

5点目、少子化が進んでいく中でですね、大山町内に危険な家屋、特定空き家と呼ばれる危険家屋がふえております。これらの対策についての町長の基本的な考えについてお伺いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員の2つ目の質問にお答えします。

まず、5点の質問について1点目、健康、医療についてお答えをいたします。

初めに、大山町民総健康づくり運動を今後どう進めていくかについては、引き続き町内の食生活改善推進員協議会や公民館サークル、民間事業者などと連携を強めてまいります。

次に、大山診療所の経営改善、利活用についての考えはですが、経営が成り立たない最大の要因が医師確保の問題であると思えます。安心できる安定した地域医療サービスの提供ができないからこそ、地域内の人の大山診療所の利用率が低くなってしまっている現状があります。今後は鳥取大学医学部との連携を強化し、固定医の確保に努めてまいります。

2点目について、まず農業振興にどう取り組むのか。特に後継者育成、後継者支援の考えについての御質問にお答えします。

本町の農業における重要課題は担い手・後継者対策であり、ブロッコリー等の特産品の産地を今後も発展させていくことが本町の活性化につながるものと思えております。

後継者対策として、認定新規就農者に対し農業次世代人材投資資金の交付、就農応援交付金や就農条件整備事業による農業機械導入の支援など、新規就農時の経営確立を図っていきます。また、親元就農促進支援交付金事業により後継者の確保をしていきます。

次に、漁業振興についてですが、本町には県下有数の沿岸漁業の主力基地があり、若手漁業者がいる活気ある港となっています。しかしながら、漁業経営環境は厳しい状況が続き、持続的な漁業経営が図られるよう後継者対策に取り組む必要があると思えております。

まず、後継者対策として、漁業就業者確保対策事業等により新規漁業就業者の確保を

していきます。また、漁業経営の安定化のためには所得の向上が不可欠です。もうかる漁業を目指して、今後も引き続き鳥取県漁協と連携しながら付加価値を高めるブランド化などに取り組んでいきます。

3点目、大山恵みの里公社をどのように改革していくかという御質問にお答えします。

大山恵みの里公社につきましては、米本議員にお答えしたとおりでございますが、マネジメント力を強化していくことが必要と考えております。

4点目、買い物弱者支援にどう取り組むかとの御質問にお答えします。

買い物弱者問題に対する解決方法は、家まで商品を届ける、近くにお店をつくる、家から出かけやすくするなど考えられると思います。現段階では、大山町ではデマンドバスが全町で運行しており、タクシー助成制度の見直しも含め出かけやすくすることを検討していきたいと考えております。

5点目、特定空き家対策についての考えはということですが、現状を申し上げますと、空家等対策の推進に関する特別措置法第2条第2項に規定する特定空き家については13件認定し、そのうち2件は個人等で除却されております。また、平成28年4月に設置した大山町空家等対策協議会で協議をし、大山町空家等対策計画を策定することとしておりますので、策定後計画に沿って対策等を実施していくこととなります。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。順を追って再質問をしていきたいと思っております。

まず、真っ先に大山診療所のことを伺いたいと思います。従来からですね、固定医の確保が課題だということはわかっていて、これまでもそのような形の取り組みがされていたんじゃないかなと思うんですけども、現実として何年も固定医が不在のままです。町長がかわったら固定医が簡単に見つかるんでしょうか。経営が成り立たない最大の要因が医師確保というふうに言っておられますが、固定医が確保できる見通しについてどう考えていらっしゃいますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。大山診療所の固定医に関しましては、町長がかわったらすぐ見つかるのかというお話もありましたけれども、やはりその固定医も見つけるに当たってはただ募集をしています、来てくださいというだけでは当然来ないわけであって、何で固定医が来ないのか。あるいはどのようにすれば固定医が確保できるのか。さまざまな手法を試みている必要があるというふうに考えておりますし、現在その就任以降ですね、既にその鳥取大学医学部との話もさせていただいたりいろいろ関係各所と相談をさせていただいて、どのような方法をとれば固定医確保に向けて一番こう近道か、早いかというところを検討しておりますし、現状で大山診療所で人間ドック等を行ってその

経営改善を図ろうとしておりますが、そもそも大山診療所の位置づけとしましては地域医療の拠点ということで過疎地の医療を担う場所という認識でありますので、その経営改善のために無理な事業をするというのは、今後検討する必要があるのかなというふうに考えております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 経営改善のために無理な事業ということをおっしゃいましたけども、済みません、それは人間ドックの事業がやはり採算的には困難な事業ということの認識でよろしいわけでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。大山診療所がですね、大山町民全体のための病院であって、そのために人間ドックをするというような位置づけであればしていけばいいのかなと思いますが、その収支が改善するからといってそこで人間ドックをするのはどうなのかなというお話でございます。大山診療所の位置づけとしては、やはり民間の病院あるいはその医業者がなかなか病院を開きづらい過疎地であるからこそ大山診療所があるわけであって、その地域医療としての大山診療所という位置づけを守っていかないとですね、今後の方向性が見えない。あるいはその人間ドック等も今後の状況によっては収支改善に寄与しなくなってくればですね、じゃ大山診療所何のためにあるんだという話になりますので、もともとの大山診療所のあり方、位置づけを明確にすることが必要だというお話でございます。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。基本的な考え方としてはそういうことでいいのかとも思うんですけども、現実的に何年も固定医が定まらない状況でございます。町長としてもう一度見つからない原因を検討されて、いろんな形で確保するにしてもですね、それを5年も10年も探し続けていてもしょうがないわけですし、やはりある程度ここまでやったけどだめだったというところの見きわめも必要なのかなとは思いますが、現状お考えとして固定医を見つける、あるいは見つからない、どの辺あたりをめぐりに考えていらっしゃいますか、年数的に。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 目安ということですので、いつまでというふうに言うと、また期限が来たときに近藤議員からあのとき何年後と言ったのにまだできてないじゃないかという追及が来るのはもう目に見えておりますし、その別に長くゆったり構えて確保しようというようなところはありませんが、一日でも早い固定医の確保を目指していくと

いうところには変わりがありません。

現状としましても関係機関等々と話を進めておまして、相手先もありますのでなかなか具体的にどこまでお話ができるかというところがありますけれども、話が進んだ段階でまた議会のほう、あるいは住民さんにも説明をさせていただきたいなというふうに思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。その言いわけの余地を残しておくというのは、若い町長らしくないなと。別にそこまでできなかつたらできなかつたなりにもう潔く説明されれば、もう私はそれでいいんじゃないかなというふうに思いますけれども、それはさておき、一つ視点としてですね、やはり今、本当は自宅で自分の最期を迎えたいと思っていながら、さまざまな要因で病院でお亡くなりになる方が圧倒的に多数であります。そのことがですね、医療費の押し上げにもつながっている側面もありまして、やはり、あの、満足して生きて満足してやはり人生を終える。その最期としてですね、やはり納得のいく終末医療、みとりという言葉でも言われたりしますけれども、そういう希望される方には自宅で最期を迎えられるようなみとりの環境、以前にも一般質問したことがありますけれども、そういう医療環境が必要ではないかなというふうに思っています。

例えば地域医療の拠点としてですね、大山診療所を生かしていく上でもですね、そういうその希望される方のみとりが対応できるような医療の提供ということが必要ではないかなと思っているんですけども、そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。終末医療、みとりということで、やはりですね、自分の家で最期を迎えたいという希望を持たれている方というのはある一定数あるのかなというふうに思っておりますし、それをかなえてさしあげることができるのが地域医療の本質なのかなというふうに思っております。現在も大山診療所あるいは大山町は鳥取大学医学部の地域医療学講座と連携をしておりますけれども、地域医療のあり方、みとり等も含めまして、どのように地域医療があれば住民さんが満足するかというようなところを今後も研究していきたいなというふうに考えております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。次に大山恵みの里公社についてお尋ねしたいと思いますが、マネジメント力を強化していくことが必要ということの答弁をいただいておりますし、所信表明の際には経営的に成り立つようにというようなこともお話があったと思います。そもそも思いますに、大山恵みの里公社については合併時のですね、大山恵みの里づくり計画に位置づけられた町の活性化、大山の資源を生かして産業振興して

いく、地域づくりをしていく、その役割を観光局とともに公社がやってくんだと、引っ張ってくんだという非常に町民から期待された組織であったわけですが、結果としてそういう役割を今現在できていないんじゃないかというふうに考えています。公社の役割、その大山恵みの里づくり計画ではですね、大山ブランド製品の育成支援だったりとかマーケティングなどの販売支援、あるいは町内のさまざまな形での人材育成、起業支援、こういったことを公社でやってもらうというはずの組織だったと思うんですけども、竹口町長の改革の方向としてですね、そういうのはもう現状できてないし無理だしもういいよ、赤字が出てなかったらいいよという格好で改革されるのか。それとも原点に立ち返って、もう設立の趣旨に沿った形でもう一回そういう組織にできるようにマネジメント力を強化する考えなのか。どちらの考えでしょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

恵みの里公社に関しましては昨日も米本議員に答弁したとおりでありまして、補助金を使わなくても自立した経営ができるようにするというをしながらも、町内生産者さんの所得向上に寄与するような運営をしていくということを目指していきたいと思っております。

12年前のその計画ではこうだったというふうに近藤議員もおっしゃいましたけれども、やはりその12年間の間でどのように運営されてきたか、経営されてきたかというところもありますし、12年間でのその社会情勢の変化、大山町内での変化等もありますので、現状としましては収益事業が90%以上となっております恵みの里公社の経営においては、補助金を投入しなくても経営が自立してできるようにすることが最優先であり、大山町民の利益につながるのかなというふうに思っております。その中で利益重視のために大山町の公益的なもの、あるいは生産者さんの所得が向上につながらないような事業ばかりをして利益を生み出すというようなところはしないようにしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） この今の説明だとですね、本当に公社の役割曖昧なまま進んでしまうんじゃないかなというふうに思います。補助金を使わなかったら、赤字が出なかったらいいのか。補助金をたくさん支出してもですね、公益の部分、町民の所得向上につながるところが大きいのであればどんどん補助金を使えばいいと思いますし、その公益的な部分がないのであれば、さっき売り上げ、収益が……。済みません、売り上げの90%が収益事業という説明でしたかね。その事業のうちの大半は、大半はというか少なからずをですね、今のふるさと納税に係る売り上げが占めているんじゃないかなと思うわけで、それも言ってみれば行政のつくり出した利益なわけでして、公の利益をそんなに重視しないのであればもう全くの民間企業にして、行政からもう切り離

すという選択もあっていいのかなというふうに思うわけで、その辺早急にですね、どっちの方向に進めていくのか、ある程度もっと具体的に方針を示すべきだと思います。どうですか。

○町長（竹口 大紀君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。具体的な方針を示してるつもりですが、どの部分が具体的にでないかはまた御指摘いただければと思います。

補助金がなくても自立した経営ができるというのを目指すということは、これはもう町民さんにとって、あるいは生産者さんにとっての利益につながるというふうに思っております。

近藤議員御指摘の補助金を使っても住民さんの、町民さんの利益の向上になれば補助金を使ってもいいじゃないかというお話がありましたけれども、補助金を使わなくても同じような効果があるのであれば補助金を使わないほうがいいに決まっているわけでありまして、そこの部分の論点がずれているのかなというふうに思います。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。あの、そういう行政の補助金なり支援がなくてもですね、どんどんやってもらえるのであればそれにこしたことはないわけで、現状そこが全くできていないと。町長自身もマンパワーに欠けているというふうにおっしゃっているわけで、そのマンパワーを拡充していくためにも、するだけでもやはりある程度公的支援がないとマンパワーの充実というのなかなか望めないであろうし、そもそも公社がもし担わないのであれば、こういった組織が大山町の起業支援をしたりとか、農業者や小規模事業者のマーケティング、販売支援のお手伝いをしていくのか。その役割が曖昧なままになってしまうのではないかと。私はそういうふうに思いますけど、どうですか。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。説明が不十分なので余り伝わってないのかなというふうに思いますけれども、近藤議員がおっしゃった部分に関しては公益事業ですので、補助金等があっても仕方ないという部分はあると思いますが、その公社全体としてその公益事業も補助金がなくても回せるようにしていけば一番いい話でして、恐らくその公益部門が今その1割以下になってきた。売り上げの比率からして、公益部門の割合がかなり少なくなってきたということは、収益部門で採算がとれるようにすれば公益部門も賄えるような体制がとれるのかなというふうに思っております。そのように述べさせていただいております。ですのでその公益な部分を担わなくするというのではなくて、そこに対する補助金投入がなくても運営ができるようにしていきたいという方針です。以上です。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。次に行きます。

時間もないので端的にお伺いしますが、買い物支援について、今現在町長の考えとしては家から出かけやすくすると。タクシー助成制度の見直しなどで対応するというようなことをおっしゃっておられます。もう少し具体的に、どのような形で見直しされるのかということと、タクシー助成で出るということも大事だかもしれませんが、例えば町内で営業しておられるスーパーマーケットなどは米子市内などでは注文販売、宅配のようなこともしておられる業者もあります。そういった何かしら町が便宜を図ることによって、宅配などのことも可能にするような施策も検討できるのではないかと思います、そのあたりのお考えはどうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。時間がないので端的に答えさせていただきます。

タクシー助成の見直しに関しましては、現在は1,000円を超えた部分の助成となっておりますけれども、そうしますとすごく短距離、初乗り部分で乗られるような方に関しては全く助成がない状態になっておりますので、そういったところを見直していきたいなというふうに思っております。

買い物支援に関しましては、現状で注文したものが家に届くという部分での買い物で困っておられる方というのは少ないのかなというふうに思っております。買い物として望まれているのは、やはりお店に行くあるいは注文した以外の商品を見ながら買い物を楽しむというところにあるわけですし、注文したものが届くというところを強化しても余り買い物弱者の対策にはならないのかなというふうに思っております。

○議員（10番 近藤 大介君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） はい。そういった施策を含めてですね、幅広く町民の意見を聞きながら施策に反映していただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで近藤大介議員の質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで休憩といたします。再開は10時40分です。よろしくお願ひします。

午前10時30分休憩

午前10時40分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

次、6番、大杖正彦議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 本日2番目の大杖正彦です。きょうは、通告に従いまして2問の質問をいたしたいと思います。

なかなかきのうから聞いておられますと、町長の歯切れのいい簡潔な答弁に、少しお若いのに、例えば質問者の最初の質問に、質問というよりも言い分に質問者の特徴を捉えられたり、あるいはエピソードを加えたり、なかなか老獪な部分も見えて非常にこれからが楽しみだと思えます。私には、とっては子供以上にお若いのに、これはなかなか大変だなというふうな気がしています。どうぞよろしくお願いします。

大山町、まず第1問目ですが、大山町観光局のあり方についてお尋ねします。

一般社団法人資格の観光局は、民間でいえば一企業と言えらると思えます。そうであればですね、社団法人としての目標の達成と一定の利益を追求するための運営が求められているのではないのでしょうか。一企業としての目標、組織、命令系統、責任体制などは万全であるかについてお聞きしたいと思えます。

大山町は、合併時町内商工産業の活性化を目標に、恵みの里構想の一つの柱として観光事業を掲げてスタートしたと聞いておられます。個人事業主が多い大山の安定的な観光事業の発展や新町長の公約である町民一丸となった開山1300年祭の成功の実現には、目標に向かって組織が戦略的に動くことが重要だと思えます。これについて、残念ながら長期的な目標、いわゆるビジョンとその責任体制が不明確ではないかと。組織がばらばらに動いているのではないかとという市井の声も耳にいたします。

恵みの里構想の中核としてできた大山観光局と聞いていますが、総会の資料を見ましても経営戦略は不明確であるように思えます。それは長期ビジョンと責任体制の曖昧さにあるのではないのでしょうか。こうしたばらばらに動く組織では、町長の公約もしかり、目指す大山の観光の振興の実現は難しいではないかと思えます。この質問はですね、この大山観光推進の目的とそこの、その責任体制を明確にすることが本来であって、本質でありまして、そこについて次の3点についてお尋ねいたします。

1、大山町においては観光、大山観光の中長期的なビジョン立案の判断と責任主体はどこと認識し、具現化の実施主体はどこであるかが1問目。

2番目に、地方創生推進事業交付金決定の内容と予算は示されましたが、町はどのように取り組み、責任を持って実行する実施主体はどこになるか。

3番目に、中長期的なビジョンをもとに各事業の費用対効果を検証する体制整備が必要と思えますが、それを実施するとすればどこになるのか。

以上についてお尋ねします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。大杖議員の一般質問にお答えをします。

先ほどの近藤議員と同じく、また褒められてのスタートということになりました。先

ほど近藤議員に褒められてスタートしたら、やはり1時間みっちり質問をされたので、大杖議員、1問目の質問は地元の大山寺に関することですので、しっかりと議論を深めていきたいなというふうに思っております。

1点目の大山町において大山観光の中長期的なビジョン立案の判断と責任主体はどこかと認識し、具現化の主体はどこかについてお答えします。

大山観光の中長期的なビジョン立案の判断と責任主体は町が担うという理解をしており、実施主体は観光局、恵みの里公社及び商工会などが中核となった各事業者となります。山の駅、これは仮称ですけれども、こもればと事業への観光局の役割であります。観光局が100%出資した会社の株式会社さんどうがこの事業の実施主体でありますので、深く関与することになります。また、株式会社さんどうは観光まちづくり会社であり、これらの事業を通じて大山の活性化を図っていただくことになります。

現在の組織体制はわかりにくく、その分、指揮命令系統もわかりにくくなっていると感じており、今後適切な組織体制に組みかえていく必要があると思っております。

2点目、地方創生推進事業交付金決定の内容と予算は示されたが、町はどのように取り組み、責任を持って実行する実施主体はどこになるかについてお答えします。

地方創生推進事業の実施主体は、町が直接行う事業と委託する事業に分けられます。実施主体については、委託の場合、委託先が実施主体となります。また、責任は委託した町にあると考えております。事業担当部署と地方創生担当部署とが進捗などの状況を共有しながら実施します。

3点目、中長期的なビジョンをもとに各事業の費用対効果を検証する体制が必要だと思うが、実施するとすればどこが行うかについてお答えします。

中長期的ビジョンについては、先ほど町が担うとお答えさせていただいたところです。検証につきましては、事業実施主体から事業効果の素材を出していただき、判断は町が行うという体制をつくっていく考えであります。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 今の答弁を聞いておりますと非常にテキストの回答書を聞くよう、見てるような気がいたしまして、もう少し具体的にじゃ実はこういうことについてはどうかということにちょっと駒を進めたいと思います。

先日、吉原議員の質問にもありましたように、例えば山陰インバウンド機構はですね、もう2015年のこれは数字ですけども、鳥取、島根両県の県内の外国人宿泊者数を2015年1年間で12万人強ということでしたけども、2020年には25万人を目指すという明確な目標を掲げております。それに対する対策を講じています。

これに対して、今答弁のありましたように株式会社さんどうが実行部隊ということですが、その明確な目標はどういうふうに掲げているか。これはビジョンは町が策

定するというふうになって聞きましたけども、さんどうは株式会社と名乗る以上、利益を追求するれっきとした企業であれば、大山地内の事業内容のつり合いを考慮したとしてもさんどう独自の目標があってもいいじゃないですか。それでないと、かかわるスタッフの意気込み、それに取り組み方も変わってくるのではないかというふうに思う、考えるわけですが、それについてどうお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

さんどう独自の目標等もあってもいいのではないかとこのところでありますけれども、さんどう独自の目標というの、ある程度大きなビジョンに基づいて観光局がそれに向かって動く中でさんどうがどういう立場をとるかというところにあると思いますし、山陰インバウンド機構がたくさん外国人旅行者を受け入れ、受け入れといいますかPRをして来ていただくような体制をとっておりますけれども、そういうインバウンドのお客さんを迎え入れる、あるいはどういうふうにしていくかというのを考えるのがさんどうなのかどうなのかも含めまして、今後インバウンドには対応していきたいなというふうに思っております。

基本的には、先ほど述べましたとおり観光の中長期的なビジョン、方針に関しては町が判断と責任を負うというふうに考えておりますので、その決めた、決定したビジョンに基づいて観光局あるいはさんどうにも協力していただきながら進めていくことになるかと思っております。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 今の件、お答えの件ですが、さんどうの意見だけということですかね。もう一つ確認したいんですが、そういう事業の、施策の振興、具体的な取り組みについて、さんどうが実行部隊。であれば、どこまでさんどうにその責任を持って事業を進めてもらうか。それに対して、町である観光局は山の駅、今開発中ですが、それからこもれびとがスタートしましてこれから本格的に2階部分、3階部分のゲストハウス部門まで事業が進むと聞いておりますが、これに対して、こういう事業に対して町観光局がどこまでかかわっていくつもりといたしますか、考えなのかお答えください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。その旧こもれび館等に関しましては、現在実施主体としてさんどうがかかわっているということでありますけれども、あくまでも株式会社さんどうは大山観光局の100%出資子会社でありまして、大山町がつくった、直接的につくったものではありません。あくまでも大山観光局に依頼をした部分で大山観光局が何かを実施していくに当たって必要と思われて株式会社さんどうを設立しておると思いま

すので、基本的に大山町が直接的に何か株式会社さんどうに対して指示命令をするようなことはありませんし、できないというふうに考えております。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。そこははっきり確認をさせていただきました。私は地元におりますから、ここに携わってる若いスタッフとしょっちゅうとはできませんがお話を聞く機会がありまして、そういった内容の、仕事の内容についてちょっとした不満を聞いたことがありますので、その不満の内容の一部をちょっと確認をさせていただきました。

一連の事業について、これにはモンベルそして町そして観光局、これはさんどうも含まれますが、その明確というか具体的な立ち位置をもう一度説明していただきたいと思えます。事業といえど利益を求める企業体の意識が必要だと思えますが、こういった観光局、そして株式会社さんどうの責任主体はどこにあるか、はっきり明確にすべきだと思っております。そうでなければ組織も人材も育たないし、能力も発揮できないと思えますが、どう思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。御指摘のとおり、今の例えば旧こもれび館の事業に関しても、モンベル、観光局、町、株式会社さんどうといろいろかかわっておりまして、なかなか関係が不明確なわかりにくいところもあると思えます。

旧こもれび館に関しては、モンベルさんに取得をしていただいたものを貸し付けていただいているというようなところですが、詳細が必要であれば担当課のほうからお答えをさせていただきます。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 議長、観光商工課長。

○議長（杉谷 洋一君） 持田隆昌観光商工課長。

○観光商工課長（持田 隆昌君） ただいまの大杖議員の質問にお答えさせていただきます。

こもれび、旧こもれび館、今はこもれびとになっておりますが、これは株式会社モンベルさんに取得していただきまして、株式会社さんどうに貸し付けているという現状であります。先ほど町長の答弁にありました株式会社さんどうは、観光局100%出資の子会社でございます。この貸し付けに当たりまして、観光局が保証人になっているというような状況でございます。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。今、旧こもれび館、今は名前が変わりましてこもれびとという名称になってビジターセンターあるいは観光のインフォメーションセンタ

一としての機能、そしてそのほかカフェやらゲストハウスというような機能も相次いで続いてとり行うということと聞いておりますが、もう一つ、今、豪円湯院隣の土地もこれも建物もモンベルから譲り受けて建物を解体し、新しく仮称山の駅というふうに聞いておりますが、テナントを4店、そして休憩カフェスペースとあわせてつくるという内容を聞いておりますが、テナントに関する募集について応募がどの程度進んでいるかお聞かせください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細は担当課からお答えをさせていただきますが、現状としましてはその仮称の山の駅ですね、複合商業施設に関しては建設も進めながら内部の計画を詰めていってる段階であります。補足は担当課からさせていただきます。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 議長、観光商工課長。

○議長（杉谷 洋一君） 持田観光商工課長。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 続いて仮称山の駅についての現状を報告させていただきます。

現在、観光、失礼しました、山の駅の中に入ってくださいテナントにつきましては、株式会社さんどうが中心になって各種事業者様と交渉している最中でございます。相手方のこともありますので詳細についてはお答えできませんが、今のところ順調といえますか、交渉は順調に進んでいるという状況であります。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） あわせてですね、これは私たち関係している者だけが知っててもしょうがないので、もう一つ、さんどうにさんどうギャラリーというのは町で運営しておりましたね。これの処置についても私は存じ上げておりますが、この場で町民の皆さんに知っていく、いただく上でもかいつまんで説明をお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。担当課からお答えさせていただきます。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 議長、観光商工課長。

○議長（杉谷 洋一君） 持田観光商工課長。

○観光商工課長（持田 隆昌君） さんどうギャラリーにつきましては、経年劣化が激しく非常に雨漏り等が激しくて、現在いろんなものが内部に入っておりましたが、それさえもちょっと耐えられない状況になっているということでございまして、景観のこともありましたので、空き家・空き店舗対策ということで取り壊しという方向に、ということで事業を進めさせていただいているのが現状でございます。

跡地利用につきましてはありませんでしたので現在のところ計画はありませんが、一

部その日本遺産の関係の委員からは空き家・空き店舗対策として物を建て壊して無理に後に何かをつくるのではなくて、取り壊すということもある程度評価できるというような言葉もいただいているのが現状です。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 今、大山寺で進められている開発あるいはにぎわいプロジェクトの内容が少し皆さんにも理解できていただいたというような気がしますが、その中でこれからが実を結んでいくための大事な事業の段階になっていくと思います。これにはですね、優秀な地域おこし協力隊員がかかわってきているということは周知の事実ですが、この業務にかかわってですね、新しい企画あるいはアイデア等提供してくれました地域おこし隊員の方が途中でやめられたりかわったりということをお聞きしました。優秀なスタッフの能力を見抜けずに、いわゆるせっかく来ていただいた優秀な人材を飼いきれずとは言いませんけども、無駄になったというそういうやめられたという原因についてはどういうところにあるか、把握されてる範囲で教えていただきたいと思います。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。地域おこし協力隊がやめられた原因について、私のほうでは把握しておりませんので担当課からお答えをさせていただきます。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 議長、観光商工課。

○議長（杉谷 洋一君） 持田観光商工課長。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 地域おこし協力隊の皆さんについての御質問が出ましたので、私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

当初、平成27年度にお2人採用させていただきましたが、そのうち1名の方は1年経過後に御自身でやりたいことが見つかったということで地域おこし協力隊を卒業され、現在大山町内に居住されていわゆる観光に携わりながら、あるいは地域の農家の皆さんと連携しながらですね、新しい事業に取り組んでいただいております。で、この卒業された方が取り組んでいる事業につきましては、観光局も協力しながら一部誘客に協力していただいているという状況でございます。

それから、その残られた1名の方は御家庭の事情がございまして、御家族の方のほうでちょっと病気になられた方等ございまして、御家庭の事情でやむなく御実家のほうに帰られなければならないという状況ができましたので、非常に御本人も残って頑張りたいたいというお気持ちが大変強かったんですけれども、御相談を受けている中でいたし方ないという状況になりました。

それから、28年度から1人、あの、女性の方ですけれども採用させていただきました、この方も非常に熱心な活動をしていただきまして、デザインとか新しい商品開発に取り組んでいただきましたが、この方も1年たちまして自分でやりたいことが見つかったということでございまして、この方も一応卒業という形になります。この方も大山町

内に住みながらですね、現在御自身のやりたいことに取り組んでいただいているということでございます。

それから、その初年度1年で卒業された方の残任期としてさらに1名地域おこし協力隊を採用させていただきまして、この方は非常にマネジメントとかそういったところで能力を発揮していただいておりますので、この方は現在観光局の中で観光の情報分析ですとかマネジメントについて業務に携わっていただいているというのが現状でございます。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） いずれにいたしましても、一つの企業ということで考えればそういった短期間で優秀な人材が途中でかわったりやめられたりするのには、理由はどうあれちょっと事業の継続性という意味でも疑問視が湧くところでございますので、町としても、あるいはこれは観光局、町が管理する、あ、観光局を管理する町としてもですね、その辺のビジョンといいますか、こういう事業の捉え方、進め方についてしっかり目を通していただきたいなと思っておりますが、これからのことの見通しについて町長はどういうふうにお考えでいらっしゃいますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。地域おこし協力隊に関しましては、やはり最終目標としまして町内に住んでいただいて、町内で外からの視点で新たなものをつくり上げていただくですとか、地域の魅力を再発見していただけるような取り組みを今後も継続していただくとというのが最終目標でありまして、地域おこし協力隊として観光局であるとか観光等に仕事として携わっていただくということも大切かと思っておりますけれども、任期の途中、3年間ある任期の途中でそうやって自分で仕事を見つけれられて新たな産業として発展させていくスタートを切っておられるというのは、ある意味成功例ではないのかなというふうに思っております。いい人がやめるというようなことであれば、観光局の組織体制のあり方等も見直さないといけないかと思っておりますが、地域おこし協力隊に関してはだめな例でやめられたというような認識は持っておりません。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。大体その内容について説明を受けましたので、ここでですね、最後に質問させていただきます。そういった一連の事業をやっていくために必要な費用、人も含めてですね、やっぱりお金がないと考えられることも起こせない、進められないということがありますが、現場のほうから予算がこれじゃとてもやっていけないというような声がないでしょうか。もしそういうことがあれば、どういうふうにか考えられているか教えていただきたいと思っております。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。観光全体の予算あるいはその観光局に対する事業委託や補助金等に関しては、今後検証することになるかと思えます。その際には、行政の中で担当課と検証するということがありますけれども、やはり大山観光局の話も聞きながら、どういうところが不足しているのか、あるいはどういうところを見直さないといけないのか。そういったところを一緒に議論をしていきたいなというふうに思っております。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） ただいま観光局については答弁を聞きまして、私も考えていないことまで聞いてしまいました。2問目に移りたいと思います。

それでは、教育長にお尋ね、教育委員会、教育長にお尋ねしたいと思います。

郷土を学ぶ授業についてということで、新教育長に就任されたときにですね、所信表明の挨拶ですばらしい自然と歴史に恵まれたふるさとを学ぶ教育を目指したいとお話しになりました。人づくりやまちづくり、まさにこれからのすばらしく新しい大山町を築くのは、これから子供たちにほかならないと私も考えております。そこで、次の3点についてお尋ねいたします。

最初に、具体的にどのような授業内容で生まれ育った地域のすばらしさを子供に伝えるか。その方法についてお尋ねします。

2番目、県教育委員会は文科省令を受け、教育の負担軽減のため部活動指導員の配置の方針を打ち出しております。制度の問題など検討する課題は多いというふうに聞いておりますが、教育長はこの問題をどう捉えて、またどう取り組まれるつもりでいらっしゃいますか。

3番目、新町長は所信表明演説で少子高齢化、人口減対策施策の一つとして保育料の無償化を訴え予算化を考えていらっしゃいます。その中でですね、ゼロ歳児は母乳そして親元で育てることが健康な子供に生育するという観点から、家庭保育児に月3万円の支援を行っておりますが、無償化をして保育所に預けるという考え方と相照らしてですね、将来健全、健康な子供に育てる手だてとして教育委員会の見解をお尋ねしたいと思います。

○教育長（鷺見 寛幸君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見寛幸教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 大杖議員からいただいた御質問のうち、まず1点目のふるさと、郷土を学ぶ授業について、具体的にどのような授業で自分の生まれ育った地域のすばらしさを子供たちに伝えるのかについてお答えさせていただきます。

教育委員会としましても、地域の歴史や文化、自然などについて学ぶふるさと学習を

大変重要なものと考えています。鳥取県教育振興基本計画にも、基本理念を支える4つの力と姿勢の中に1つとしてふるさと鳥取県に誇りを持ち未来を創造する力が上げられておりますし、大山町教育振興基本計画にもふるさと大山に誇りを持ちふるさとを愛する児童生徒を育てるために地域の自然、文化、人材を教育資源とし、地域とのつながりのある教育活動を推進すると記しております。もともと学習指導要領においても社会科の目標として国土と歴史に対する理解と愛情を育てと記されているなど、社会科、理科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動などさまざまな教科等において地域の自然や歴史、文化を学んだり郷土を愛する心を育んだりすることが目標や内容として示されていますので、本町の学校では地域の自然や歴史、文化などを取り上げ学習を進めています。

このような考えのもと、各学校では地域の方をゲストティーチャーとして招いてお話を伺ったり現地に出かけて直接見聞きする学習を取り入れたりしながら、積極的に地域の資源を教材として活用しています。

また、それらの学習を支援するために教育委員会では地域教材資料「私たちの大山町」を作成し、小学校3年生以上の全ての児童生徒に配付しています。平成29年3月に発行した中学生版では、地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市のストーリーが日本遺産に認定されたことも取り上げています。

さらに、郷土の歴史文化の学習について少し具体的に上げれば、昨年度は小学校の生活科の単元で春夏秋冬見つけとして大山小学校1年生では大山保育所の年長児とともに季節ごとに学校周辺の自然観察を行い、冬には春の七草を集め七草がゆをつくって食べました。また、中学校の総合的な学習の時間において、例えば中山中学校では50年以上前から伝統となっている写生大会を行い、中山の自然に親しみ郷土への慈しみを深める学習に取り組んでいます。4つの学校とも、小学校とも5年生で大山登山を実施しており、名和小学校では「大山マイスターになろう」という単元で登山前に人権・社会教育課職員が大山の自然、歴史について小学校で講和をするなどの学習も取り入れています。春に行われた運動会の組体操では日本遺産や大山開山1300年をテーマにしたものなど取り組まれており、大山町を知り学びを深めていこうという雰囲気も盛り上がってきています。

大杖議員もおっしゃるとおり、人づくりはまちづくりという観点からも将来の大山町を担う子供たちにふるさとと大山のよさをよく知ってもらい、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する子供たちを育てていくことが将来さまざまな側面から大山町を支えていく人材の育成につながるものと考えていますので、これからも各学校の取り組みの充実を図っていききたいと考えています。

2点目の部活動指導員の配置の方針についての御質問ですが、今まで部活についての外部指導員に対する法令上の根拠規定はなく、部活動も学校の教育活動である以上、教員が必ず部活動の顧問に就任することが求められ、学校外の各種大会では教員が、教員の引率が義務づけられていたと把握しております。

今回、平成29年4月1日より施行となった学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行についての通知により、部活動指導員についてその名称と職務等を明らかにし部活動の指導体制の充実が図られるようになったことは、近年の教職員の多忙化とともに部活動における専門的な指導を受けることができない生徒の増加という課題を解決する一助になるのではないかと期待しているところです。

鳥取県でも、平成28年9月1日から9月30日に鳥取県教育委員会が調査した結果、中学校教員の勤務時間外における業務時間数は平均時間59.95時間、80時間を超えた教職員数は全体の23.4%に及んでいます。中学校学習指導要領の総則では、部活動については学校教育の一環として教育課程との連携が、関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態等に応じ地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすることとありますので、部活動の指導を充実していくためには地域のスポーツ指導者等に参画してもらうことが重要だと考えています。

今年度は希望がありませんでしたが、大山町では平成26、27年度に部活動、運動部活動推進事業を活用し、卓球や野球の外部指導者から年間数十回の指導を受けておりました。この制度により生徒の技術力等は向上しましたが、指導時間の制限等があること、部活動の時間のみに指導していただける指導者を探すことが難しいなどの課題があります。校長の監督のもと、顧問として任命でき、専門的な技術を生かした部活動の指導、単独での引率等を行うことができる部活動指導員の制度は、とても魅力的な制度だと考えております。しかし、生徒に対する技術的な指導だけではなく部活動に関する年間・月間活動計画の策定や部活動予算の調製、学校内外の顧問会への出席等も考えられることから、部活動指導員は教員との連携、協力が不可欠であると考えます。

また、部活動指導員の参画に当たっては、特に生徒の個人情報等についての守秘義務、具体的な指導内容や方法、事故が発生した場合の対応や責任体制などについて十分な調整を行い進めることも重要です。さらに、専門的な技術指導がなされることから勝利至上主義的な指導にならないよう、部活動指導員には研修を行う必要があると考えています。

部活動指導員の任命に際して、技術指導に加え各部活動の目標や方針、生徒の発達段階に応じた科学的な指導等について理解させることなど必要な研修を実施することや、学校を設置する立場として部活動指導員に係る規則等を整備し、勤務形態、報酬、費用弁償、災害補償等に関する事項を定めることなど、これから検討する必要があると考えております。鳥取県でも4月から高等学校でモデル的に本制度を導入しておりますので、これらの取り組みを参考にし、本制度を導入することについては検討していきたいと考えております。

次に、3点目の将来健全、健康な子供に育てる方法についての教育委員会の検討、見解をとの御質問にお答えします。

乳児につきまして、家庭で育てることが愛着形成に深めることにつながることから、昨年度家庭保育支援給付金制度を創設し、今年度は県補助制度の開始もあり、支給対象範囲を1歳までから2歳までに拡大して給付を行っております。子供たちが親や家族と触れ合いながら地域の中で育っていくことがとても大切なことと考えます。教育委員会として、それを基本に今後について町長部局と協議しながら、よりよい方法を考えていきたいと思っております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。丁寧な御説明で、自分が育った、自分が生まれ育った土地がですね、どんなところでどのような歴史があるのかより知り尽くし、将来、県外などに進学、就職した際、誇りを持って自分の育った地域を、ふるさとを友達に自慢できるそういうことは非常に素晴らしいことと思っております。私自身も高校時代までしか大山町にはおりませんでしたけども、離れてても常に思い出すのは大山です。

こんな話があります。私もスキーをやった関係でいろんな素晴らしい自然を持った、海外も含めて行きますが、友達がですね、例えば有名なマッターホルンとかモンブランとかいうところへ行ってみても余り驚かない、きれいだなって言わないねと言うんです。大山見るとこれは当たり前だと。大山のほうがもっときれいだと思うときもありますというふうに言ったら、その友達が10年後かに私がスキー引退して大山に来たとき、ああ、なるほど、これ見てたらどこへ行ってもきれいという印象は少ないなというふうに納得された話があります。それは自然という景観だけですが、それに加え開山1300年という壮大な歴史もあり、そういった歴史も知ることによって誇りも、あるいは自慢のことも多く膨らむことになることと私は信じております。

そこでですね、新しい授業はカリキュラムの編成上時間的、教員の先生の皆さんの人数的にも制約があると思われれます。課外授業として、教員であった、あるいは役員のOBの方々のシニアを指導、の方に、先ほど答弁の中にもありましたが、どういう形で指導するかと、それをどういう形で取り組んでいかれるか。もし具体的な考えがございましたらお聞かせください。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 大杖議員のおっしゃるのは、ふるさと教育に関してですか。

○議員（6番 大杖 正彦君） スポーツも絡んでですけど……。

○教育長（鷺見 寛幸君） 課外スポーツはまた……。

○議員（6番 大杖 正彦君） 含めてですね。

○教育長（鷺見 寛幸君） はい。まずふるさと教育についてですが、先日、各保育所長また小・中学校長の管理職会の中で、私は来年は大山開山1300年があると。また、

昨年は日本遺産に大山が指定され、これに向けて全町民を挙げて取り組んでいくということで、やはり子供たちも一緒にやってみましょうと。そのためには、各保育所、小学校、中学校で地域の魅力を生かした教育をやってほしいというふうに申しました。その中で、早速保育所のほうでは地域の山を知ろうということで、大山保育所では佐摩山登山、大山登山をこれから年長児にやらせたいと。また、名和さくらの丘保育園でも佐摩山登山、飯戸山、大山登山、大山登山はもちろん頂上までというわけでもなしに、3合目であったり5合目までだったりします。やはりそういった子供たちへのかけがえのない体験をさせようという、大山の魅力を生かした大山を体験をさせたいというようなことが出ております。これに関して、山をよく知っておられる方々に協力していただくとか、また小・中学校の取り組みでも地域を知ろうということで地域の特性を生かした遠足を計画したり、またスキー教室でいろいろとお世話になってる方がありますが、大山の自然を生かしたスキーをぜひとも子供たちに体験させたいということで2回あるいは3回、年に計画している学校があります。そういう部分で、大いに地域の方の人材を活用させていただければなというふうに考えております。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 私がちょっと申し上げたい点はですね、これは自主組織の活性化、活用にもつながることだと思いますが、役場の職員であった方だとか学校の先生だった方というのは特にやっぱり地元の方に、ことに非常に詳しい方が多いわけですから、そうしたOB、シニアの起用は高齢になった方々の生きがいを生み、当然若い子供たちとの交流もふえ、健康寿命の延長にもつながるんじゃないかというふうに考えております。こういったことを進めていく考えについて、御所見を伺いたいと思います。

○議長（杉谷 洋一君） 鷲見教育長。

○教育長（鷲見 寛幸君） あの、私の3月まで在籍しておりました大山小学校では、地域の方、児童数よりもたくさんの方にお世話になっていろいろな場面で子供たちとかかわっていただいております。100名を超える方がボランティア、地域のボランティアとしてかかわっていただいて、皆さんがよく言われるのが本当に子供たちの元気をもらったわ、元気になったような気がするわというやなことを言われます。また、子供たちも、地域の方のいろいろな知恵を学ぶことで子供たちにとっても非常にいい体験をさせていただいております。なかなか教員では指導できない部分がたくさんあります。先ほどの部活動指導員もそうです。鳥取市の例では、部活動の47%が専門的な指導ができない教員が部活動をしてるというようなこともあります。また、学校で学校農園をやる上で野菜づくりをしようという場合、また米づくりをしようという場合も教員が指導できません。そういうときに地域の方の力を、知恵をかりて行うことで子供たちは専門的な指導で活動ができます。ですのでどちらにとっても、子供たちにとっても地域の指導者の方にとっても、よりよいい関係ができるんじゃないかなというふうに考えておりま

す。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） そうですね、あの、都市部ではない里山なんかの自然のすばらしさを子供たちにいかに伝えるか、いかに楽しんで覚えてもらうかということは、非常に私個人の経験からしても山の中を走り回った餓鬼大将としては、山猿と言われた私としては非常に大切だと思うので、近年思っております。

その質問の締めくくりの仕方をどうするか非常に難しいところですけど、お願いしづらいし、要望でもいけませんし、私の考えが正しいかどうか所見を伺って最後にしたいと思います。お願いします。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 大杖議員の今までの大山での過ごし方、生き方から学ばれたことをお聞きしましたし、私自身も地元大山に住む者として共通の思いを感じました。毎日眺める大山、大山さんとあがめる大山の恵みをぜひ子供たち、また町民全体に生かしていけるようにしたいと思います。ありがとうございました。

○議員（6番 大杖 正彦君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで大杖正彦議員の質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 引き続いて一般質問を行います。

次に、9番、野口昌作議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 9番、野口昌作でございます。きょうは3問について質問させていただきます。よろしく願いいたします。

まず最初に、竹口新町長の所信表明の政策実行についてということで質問させていただきます。

竹口新町長が誕生し2カ月がたとうとしております。立候補に当たり、5本の柱を掲げて新しい大山町をつくり上げると訴え、今はその政策実行を全町民が見守り、期待しております。人口問題で少子高齢化の進む中、若い世代が町外に出てしまい戻ってこない。この状況を解消しなければならないと訴えてこられました町長、町長はみずからが若い世代に当たります。現実を若い世代としてどのように分析しておられるかということ。

また、5本の柱の中の税金の無駄遣いはやめる、教育・子育て環境の充実、農林水産商工業を強化、住みやすさ向上、魅力ある雇用の創出、この5項目について、現予算を変更あるいは新設などを具体的にどのように考えておられるかということをまず最初に質問いたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 野口議員の御質問にお答えしたいと思います。

なかなか野口議員らしい御質問で、野口議員とは当選同期でして、こういった意図でこういった質問をされているのかなというところも想像しながらお答えをさせていただきたいと思います。

まず、人口問題ですけれども、大学進学などで県外に出た若者が帰ってこない、そして近隣の米子市などに転出するケースが多いとの分析をもとに取り組む必要があると思っております。

政策の5項目につきましては、今年度は既に事業が開始されておりますので予算の変更は難しいものと考えております。また、幾つかの政策につきましては今議会に提案をさせていただいておりますが、順次可能なものから実施をしていきたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 今の答弁の中でですね、人口問題では大学の進出などで県外に出た若者が帰ってこない。ただいま、さっきのですね、大杖議員さんの質問の中で教育長もこの郷土を愛する、郷土に誇りを持つ、こういう教育を進め、それが郷土を捨てるといいますかね、そういうことになってしまうわけではないですけども、そういう教育をして郷土に残るといような状況に持っていかなければいけないと思っております。

今、町長が大学進学などで県外に出てしまった若者が帰ってこない。これが一番大きな問題でないかと思ったりします。

4月ですね、人口動態の中でやっぱり自然動態でなくして社会動態として転出してしまうということが非常に多いでないかと思ったりするわけでございまして、そういう中で、やはりこの大学に出てしまった場合、これが帰ってくる気持ちになるということが非常に大切でないかと思えます。それでその大学に出ることはとめられませんが、大学に出て帰ってくるような環境につくっていかなければいけない。まず、その第1には働く場所というものを考えなければいけないということでございます。働く場所としてですね、町内にも非常に多くの企業が誘致してございまして、企業がですね、あの、鳥取県内でも企業数が多いわけですが、これらをですね、もっと求人情報というもの、小さいときから企業情報といいますか、この我々のふるさとにはこういう会社もあるんだ、こういう勤めもあるんだということを若いときからですね、大学を出ても帰ってああいうところに就職したらいいなというようなことがわかるようなことをですね、町長に考えていただきたいと思うわけでございますが、町長、どうでしょうか。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

大学を出て帰ってきてもらうために仕事が必要じゃないか、あるいはその仕事が地元でどういったものがあるのかを社会に出るより前に周知しておく必要があるのかなという御質問でしたけれども、まさにそのように思っております。ただ、その手法については難しいところもあると思いますし、今、その県外に出た若者、あるいは大学のために県外に出ている若者が地元の仕事に魅力を持ってもらってないというのも一つのポイントかなというふうに思っております。県内でも有効求人倍率とても高くなっておりまして、仕事の数自体はあるんですけれども、今その大学を出た若い人たちがつきたいような仕事がないというのが一番の原因かなというふうにも思っておりますので、どういった仕事が町内にあるのかという周知もしっかりとしながら、仕事のミスマッチもなくしていくように取り組んでいきたいと思っております。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） あの、仕事についてはですね、やはりこの教育といえますか、このPRをしながらですね、やっぱり地元でもこういう仕事があるんだ、大学を出てもこういう仕事ができるんだなというようなことをですね、自分が自分の体にきちんと植えておけるようなPRといいますか、そういうこともですね、ぜひやっていただきたいなというぐあいに思ったりします。

それから、あの、今米子市なんかに住居、住宅を構えてしまったり就職が米子市だった場合、いわゆる米子市に転出するとか転居するとかということが多いうように思ったりしておるわけですが、役場の職員の方もですね、米子市のほうに住んだりというやな方もあるわけですが、そういう中でやはり各集落のですね、跡継ぎがないというようなこともたくさん出ているような状況でございますから、この住居をですね、移してしまう、米子市のほうに、跡をとらなければいけないという段階でもそういうことになってしまっているという状況の中で、やはり地元で生活するということができる方法、そういうような考えになることをですね、考えなければいけないなというぐあいに思ったりするわけございまして、その事例としてですね、竹口町長はたしか坪のほうで生まれ育っておられるわけですが、現在は上万ですか、というやなことになっとなりますが、そのそういうような環境の中、そういう転居されるそういうような、私はそういうことをやったことがありませんから、もう八重の家一本でございますから、そういう心理の中ですね、何かこういうようなことをすれば今の住居に定住するんだと。私たちみたいな形でですね、定住するんだというようなことをですね、考えられないかというぐあいに思ったりしますが、町長、どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

若い人が米子に出て行ってしまって、なかなか帰ってこないような例は確かにたくさん

んあると思います。その一つとしましては、仕事というよりは住居の問題があらうかなというふうに思っております。

御指摘ありましたとおり、私も下坪の生まれ育ちで、今、旧大山町のあずみの郷に住んでおりますけれども、これもですね、もともとその家自体が3世代同居、多世代同居ができるような家に全ての家になっていけば、そういう若い世代が出ていなくてもいいのかなと思いますけれども、やはり子供が生まれる、ふえるというふうになってきたときに、なかなかそうやって一緒に住めないような例もあると思います。その際にですね、私もぎりぎり大山町内にとどまれましたけれども、探しましても大山町内なかなか賃貸住宅が少ない現状があります。みんながみんな全て家をですね、増築したり新築したりというのがすぐにできればいいと思いますが、なかなかそういうことができないということで米子市、特に淀江ですとか大山町になるべく近いようなところに出ていっている例も多いのかなと。それは住環境というよりは賃貸住宅、賃貸物件を求めて出られているという例が多いのかなというふうに思いますので、大山町内にもうちょっとそういった賃貸住宅がふえるような取り組みをしていきたいなというふうに思っております。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 今、町長体験の中からですね、賃貸住宅の関係だというようなことも聞いたわけでございますけれども、町長、そういう賃貸住宅に住んでですね、その後の世代というものは町内に在住する、定住するというようなことがあるものでしょうか。また、そういう賃貸住宅に住んだ後継者、跡取りはですね、跡取りは恐らく町内から出てしまうということが多くでなかろうかというぐあいに思ったりするわけですが、町長の体験の、体験まではならんですけども考えの中でですね、賃貸住宅に住まるとる人口が多いわけでございますけれども、集落のですね、人口が減っていく状況の中でそういう賃貸住宅に住む方がもう大学を卒業したら、それこそ地元に戻ることもなくというやな流れがあるでなかろうかというぐあいに思うわけですが、町長、その点についてはどういうぐあいに思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 賃貸住宅に住んだ人が家に戻ってくるのかということですが、大山町内に近居という形で住んでいけばですね、可能性としては米子に住んでいる人が家に帰るよりもハードルがかなり低いのかなというふうに思います。

またですね、一度県外に出た人がさあ大山町に戻ってこようというタイミング、あるいは結婚して大山町に帰ってこようというようなタイミングでですね、やはりこれもすぐに皆さんが新築なりをできるわけではありませんので、賃貸住宅を探して米子市、近いから米子市でいいかということで米子に戻られるような例も多いかと思っておりますので、やはりその賃貸住宅に住まれた方がその後どうなるかは別としましても、ひとまず大山

町にとどまってもらうための施策としては賃貸住宅をふやすというような取り組みが必要であろうというふうに思っております。住環境であるとか仕事であるとか、いろいろとそこの地に住むという理由はさまざまかと思いますが、現状としてニーズに供給が追いついていないのは事実であろうかと思っております。以上です。

○議員（９番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（９番 野口 昌作君） あの、今、賃貸住宅ですね、そこらに定住するということは少ないでないかというような意見を私申し上げておりますけども、私、あの、賃貸住宅を建ててですね、その賃貸住宅に入られて何年間か住んだ場合には、それをある程度低価格ですね、その人に譲ってしまうというような政策を持っていただいでですね、その中から定住をふやしていくというようなことを考えてみなければいけないでないかと。ある程度の居住年数があれば譲ってしまうというようなことをですね、考えてみてはどうかというぐあいに思いますが、町長、人口問題についてのこと、最後ですがどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

居住年数によってその住宅をあげるというような施策をやられている自治体がほかにあるというのは認識をしております。例えば町営住宅を建てて30年の家賃でそのまま譲渡してしまう、あるいは20年の家賃分でそのまま譲渡してしまうという例はあろうかと思っておりますけれども、その現状とか今後の見通し、町財政等を考えましても、実際問題今から町営住宅を、賃貸住宅をふやすために町営住宅をつくっていくというのは得策ではないのかなというふうに思っております。賃貸住宅をふやす施策に関しましては、民間の資金等を活用した方法を考えてふやしていくというのが一番ではないのかなというふうに思っております。以上です。

○議員（９番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（９番 野口 昌作君） あの、また政策の中で考えていただくとしたしまして、次にですね、最初の答弁の中には今後順次可能な限り実施していくというような捉え方でございますけれども、その中でですね、自主財源をふやすための取り組みとしてふるさと納税の強化ということをおうたっておられます。所信表明の中でですね。その中で、寄附というふるさと納税の本来の姿に近づけるために、政策的な使途を提示するなど財源を確保するため、する以外にも重要な役割を果たす存在であると認識しておりますということで、政策的な使途を提示するということがうたっておられますけれども、この政策的な使途というものをですね、町長は現在どのような政策的な使途ということをおうたっておられるかお聞きいたします。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。ふるさと納税の強化に関しての御質問にお答えします。

政策的な使途をどうするかというところですけども、具体的詳細な細かいところは今後担当課と詰めていきたいと思いますが、現在考えているのは例えば子育て施策に関するものというようなメニューをつくって、そこに入ってきたふるさと納税を財源として子育て施策をやっていくというようなイメージです。その中のメニュー化についてはいろいろこうやり方があると思いますし、ほかの自治体の例を見ましても、その政策的な使途の提示によってふるさと納税がふえているという例があります。総務省の通達によりまして、ふるさと納税の返礼品が3割程度以下に抑えるというふうになっておりますので、今後はその返礼品、当然大山町魅力的な産品ありますので、返礼品でふるさと納税を伸ばしていくというところもやっていきつつも、政策的な使途で大山町に寄附したいなというふうに思ってもらえる人を一人でも多くふやしていくような取り組みを進めていきたいと思っております。

○議員（9番 野口 昌作君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） では、ふるさと納税のこの政策的な使途というものはまだ、子育ては決めているけれどもまだそのほかについては決めていないということで…

○町長（竹口 大紀君） いや、全部決めてないです。

○議員（9番 野口 昌作君） 全部決めてない。

○町長（竹口 大紀君） はい。

○議員（9番 野口 昌作君） あ、そうですか。まあそういうような、今総務省のほうでそげなやなことは言うておりますから、大いにまた決めていただいてですね、ふるさと納税の資金が使えるような方法というものを考えていただかなければいけません。

次にですね、次になら移ります。次に移りましてですね、第2問目といたしまして特産大山ブロッコリーの生産拡大についての政策をということで質問いたします。

農地の耕作放棄地が拡大しつつある現在でございますが、大山の恵みを生かし大山を眺望する美しい田園風景を守り、生活を豊かにしていかなければなりません。

本町農業を振り返れば、水田では水稻を主体に葉タバコとか麦とか、畑は梨がですね、つくられておりました。作物も、耕作作物もですね、時代によっていろいろ変わってくるのでございまして、これが常だと思ったりしております。現在はですね、ブロッコリーが大山町の特産品、ブロッコリーと白ネギが特産品ということでですね、生産が拡大しつつあります。ブロッコリー栽培でですね、つらい仕事に早朝収穫がございまして。その日出荷という考え方がですね、もとでございまして。そうして生鮮食品をですね、朝どれの野菜をすぐに消費者に届けるというようなことですね、早朝出荷、早朝収穫がございまして。私も農業でございましてからブロッコリーをつくってございまして、早朝にです

ね、収穫をしてその日のうちに消費者に届けるんだ、新鮮なものを届けるんだというような考え方でやっておりますけれども、なかなかですね、つらい面がございます。

そういうようなことからですね、ブロッコリー収穫に冷蔵庫施設というものをですね、取り入れて、ブロッコリー収穫をですね、前日の午後ですね、日が少し陰ったようなころからでもできるというようなことにすればですね、この特産品のブロッコリーの栽培がもっとふえ、そしてですね、1,000万を超えるブロッコリー農家が昨年ですと17戸でしたか、何かあるわけがございますけれども、どんどんふえていくでないかなど。そしてですね、本町の特産品を伸ばして、そして本町の発展、生活改善という、生活向上ということにつながっていくというぐあいに思ったりしております、大山町の特産品増産に向けてですね、この冷蔵庫というものに対して支援していただく考えはないかということでございます。質問いたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。ブロッコリー農家でもあります野口議員の2つ目の質問、ブロッコリー収穫において冷蔵施設が必要との御質問にお答えをします。

本町におけるブロッコリー生産におきましては、高性能機械の導入により規模拡大が図られた一方、収穫作業が重労働となり、高齢化による農家戸数の減少とあわせて中核農家の規模縮小が危惧されております。このような中で、収穫時間帯の緩和や鮮度保持対策として冷蔵施設の導入は有効であり、平成30年度にがんばる地域プラン事業を活用して導入支援する考えです。

以上で答弁を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） あ、ごめんなさい、まだ途中ですけども、ここで休憩したいと思います。再開は午後1時ということにしますので、よろしく申し上げます。

午前11時58分休憩

午後 1時00分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 昼にですね、議員控室のほうで昼食をとりましたけれども、非常に日本海が穏やかですね、きのうきょうと非常に穏やかでございます。私もさっきの回答を聞いてですね、非常に日本海のような気持ちになりました。ブロッコリーですね、冷蔵施設を30年度から実施するということございまして、非常に町長も農林水産業ですね、振興に本当に力を入れる考えだなというぐあいなことをひしひしと感じたわけでございます。

そこです、このブロッコリーの冷蔵施設でございますけれども、これは冷蔵庫、それにですね、それを入れるためにまた家屋を改修しなければいけない。倉庫を直してですね、そこに私もはっきりわかりませんが聞きますと1間四方のような入れ物のようでございますが、それが入って水道、電気、排水設備も整備しなければいけないというようなことございまして、非常に経費がかかるわけでございます。そういう経費がかかるということも御存じかと思っておりますけれども、この30年度からのこの導入に関してはですね、これからそういうようなことを決められるかもしれませんが、そういう施設費についてもですね、対象とするという考え方かどうかお尋ねいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。こちらからですね、いい回答をするとさらに上乘せでこれはどうかあれはどうかという御提言が昨日もありましたけれども、今はその冷蔵庫の設置というところで、係る関連経費等は現状では考えておりません。冷蔵庫の導入に対する補助でがんばる地域プラン事業を活用していくというふうに考えております。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） そういうどんだんだんだん要求が拡大していくというようなことがあるからということでございますけれども、そういう面もあるかもしれませんが、ぜひですね、生産者が生産拡大ができる。その冷蔵庫施設を入れることによってですね、1シーズンのブロッコリー代が飛んでしまいますから、そういうやなことをですね、考えていただかなければなりませんけれども、このですね、そのがんばる地域プラン事業というものの支援率ちゅうですか、そういうのんはどういう数字でございませうか、お尋ねいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。全体の金額、農家さんが受けられる助成の金額としては2分の1になろうかと思いますが、補足等は担当課からさせていただきます。

○農林水産課長（末次 四郎君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 末次四郎農林水産課長。

○農林水産課長（末次 四郎君） ただいまの質問にお答えします。

先ほど町長から答弁があったとおりでございます、内訳としましたら県が3分の1、町が6分の1を負担するものでございます。以上です。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） それです、わかりましたが、今、初夏どりブロッコリーということですね、今出荷の最中ございまして、皆さん方がですね、出荷され

ておりますが、私は早目に上げてしまいましたけれども、初夏どり、来年のですね、30年度ということですから初夏どりブロッコリーが5月の初めからかかります。そういうようなことですね、来年度予算は4月からのスタートになるわけでございますけれども、できるだけ早く設置してですね、この効果が上がるようにというぐあいに思うわけでございますけれども、そういう希望の取りまとめとかそういうようなこと、このごろの、きのうきょうのですね、この一般質問の中、一般質問についてもですね、非常にスピーディーな回答をいただいておりますが、そういうスピーディーをもって希望をことしからでも取りまとめて、来年度になったらすぐにでも着工するかというようなことをぜひやっていただきたいわけでございますけれども、その辺の考え方はどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。可能な限り早く取り組んでいきたいなというふうに思っております。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） はい。そうしますと、ブロッコリーの冷蔵庫の質問につきましてはこれで終わります。

次にですね、道路の側溝、覆いかぶさる枝、表示等の適正な維持管理についてということ質問させていただきます。

道路は社会生活の血管であり、適正に管理されていなければなりません。道路新設の時代から維持管理の時代に移ってまいりました。側溝の管理はもちろんでございますけれども、道路を覆う木の枝は大型トラック、特に芝運搬では非常に大きなトラックで芝運搬するわけでございますが、非常に運転の邪魔になる。そういうような状況が起きております。そういう中から事故ということも、トラックが横転するというような事故もあったりしておるようでございますけれども、これらについてですね、関係者の方それから集落などと話してですね、枝を切る必要があるでないかなというぐあいに思ったりします。

それから、あの、白ペンキでですね、道路にいろいろと表示がしてあります。中央線なりですね、とまれとか停止線とかというようなことがあるわけでございますけれども、この除雪によりましてですね、消えかけているという部分が非常に多くございまして、これもですね、この事故を防ぐ、事故のない安全な運転をですね、していただく安全町を目指してですね、適正適切な維持管理に取り組む考えはないかということでございます。回答をお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。野口議員の3つ目の質問、道路の側溝、覆いかぶさる枝、

表示等の適正な管理について、この御質問にお答えをします。

町では現在道路維持作業員を毎年10名雇用しており、道路側溝の清掃、路肩の草刈り、のり面の雑木の伐採を適宜行っております。

また、路面標示については、毎年センターラインや外側線、停止線の引き直しを行っており、とまれなどの路面標示は公安委員会との協議により行っているところです。

しかしながら、道路に覆いかぶさる枝の伐採については、除雪作業に支障となる箇所や地元から要望があった箇所については早目に対応しておりますが、その多くは民地から伸びている木の枝であるため、所有者の了解なしに勝手に切ることができず、議員御指摘のような箇所が見受けられるのも事実であります。今後は道路パトロールを実施し、改めて現状の把握を実施していくとともに、関係者及び関係機関と協議をしながら計画性を持って道路の適正な維持管理に努めていきたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 今回の答弁の中でですね、道路パトロールを実施して改めて現状の把握を実施していくとともに、関係者及び関係機関と協議しながらということですが、関係者、関係機関とは誰を指しておられるかお尋ねいたします。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。担当課よりお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 議員御指摘の関係者及び関係機関とはこういったところを指すかということですが、関係者につきましては木の枝等につきましては木の所有者等を指しております。そして、関係機関等については公安委員会等を考えております。以上です。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 関係者ということになると、所有者、樹木の所有者というやなことですが、あの、このごろですね、おおさか公園食堂の北側ですね、県道の覆いかぶさった枝が切っております。非常にすかつとした状態になったわけですが、あれは県道ですから県がやったでないかと思ったりしておりますけれども、あの関係者にですね、それぞれパトロールしてそれぞれ関係者にとということも行政としてもですね、これなかなか大変だなというぐあいに思うわけですが、あの、私の思いますのは集落でですね、そういうようなところを出していただき、そして集落の中でできるだけですね、その関係者の方との対応もしていただいて、そしてそこに町が入ってきて切るということにすればですね、町もしっかりやっ

とるなということになるわけでございまして、関係者に直接でなく、直接やらなければいけないところもあるわけですが、そういうような対応というものが考えられるでないかと思ったりします。

それで何せ町が維持管理している農道がですね、111キロ、林道が5キロからあるわけでございます。それから、町道については375キロぐらいありますか、というふうなことでですね、非常に面積、あの、延長が大きいわけでございまして、これらについてですね、やっぱりその集落の方とかというふうな協力をもらわなければですね、なかなか難しいし、集落の皆さんのですね、希望をぱっとかなえるというふうなことができないでないかと思ったりしますが、その辺についてはどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 道路総延長長いので、町だけでは管理できんじゃないかという、地元の協力も必要じゃないかというところですが、そのとおりだと思いますし、現状どうなっているかに関しては担当課より答えさせていただきます。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 集落のほうで、あの、そういう関係者の協力をということでもありますけども、町といたしましてもそういった形で集落のほうでまとめていただければ、こちらとしても対応をさせていただきたい、やすいところを考えますので、そういったところはどんどん協力をこちらからもお願いしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

また、そういったところが支障になっているとか、そういった情報も含めて御提供いただければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） 今ですね、そういうような対応をどんどんしていくんだということでございますから、区長会とかですね、いろんなPRの方法があると思いますので、そういうことでぜひやっていただくようにというぐあいに考えるところでございますし、それからですね、この町道でもですね、今この前の選挙のときに回ってみますとですね、ガードレールなんかもうめちゃくちゃになってるような町道もございます。場所で言いますと、私、一番感じたのは香取のほうでございましたけれども、ガードレールなんかもうめちゃくちゃになっているというふうなところがあるわけでございますけれども、住人を雇用していろいろとパトロールしながらそういうのもですね、見ていき、修理されるということだと思いますけれども、そういうガードレール、ガードレールにつきましては前も、前に私もこの部落の入り口なんかのガードレールがですね、真っ赤にさびて、さびてしまっただけでですね、白いガードレールでない。非常に部落の

イメージが悪くなり、本当に過疎地みたい、過疎地みたいなですね、この部落は本当に入り口からこがいにさびとるかいなというような感じがするようなところがあってですね、そういうところを少しでも塗りかえとかかえるとかというような方法も考えるべきでないかというような一般質問をしたことを覚えておりますけれども、そういうような観点からですね、ガードレールについてもそういうことを迅速にやっていただきたいなと思ったり、今言いますのはいわゆるめちゃくちゃにめげてるようなところをですね、迅速に修繕というようなことを行っていただきたいなと思いますけれども、そういうのも把握しておられるか。そしてですね、計画を組んでおられるかということをお尋ねいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。把握しているか、計画はあるというところに関しては担当課より答えさせていただきたいと思いますが、町としましても適正にそういったものを管理、維持管理していきたいと思っておりますし、個別具体的な案件に関してはまた別途御相談、御要望を上げていただければなと思います。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） ガードレールが傷んでいるところを把握しているかということでございますけども、御指摘いただきました香取につきましては御要望のほうはいただいております、ただ延長が長いものですから全てを一気に交換するということがなかなか難しい状況もございますので、毎年少しずつではありますけども対応のほうはさせていただいております。以上です。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） それからですね、あの、停止線なんかの表示が消えてしまっておりましてですね、本当にこれらについてどういうぐあいな考え方なんだろうかいというぐあいに思ったりするわけですが、とまれがあったり停止線があったり中央線があったりするわけですが、せめてもですね、停止線というものが一番大事で大切だなというぐあいに運転しながら感じておるわけですが、停止線なんかはですね、春になるときちょっとさっとですね、引いてしまうというようなことをやらなければいけない。除雪が済んだらですね、きれいな停止線でまた新しい気持ちでですね、運転するんだというようなことにしなければいけないでないかというぐあいに思ったりしますが、その点についてはどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。そういったものに関しても適正に管理をしていきたいな

と思っておりますが、その全部が全部除雪が終わったら路面に引いてある線が消えるというようなことではないと思いますので、またその個別にこういうところが具体的にもう完全に消えてしまってるので直してほしいというようなところがあれば、また担当課のほうに御相談いただければと思います。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） あの、いろいろとですね、道路問題につきましていろいろな指摘をしているわけでございますけれども、この10人の雇用をしてですね、そして道路維持管理にということでございますけれども、これはたしかこの前もそういう募集があったなというぐあいに思ったりしますが、今現在もうその方々が動いておられるか。そしてですね、その指揮命令系統はどういう形でやっておられるかということをお尋ねいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当課よりお答えさせていただきます。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） はい。指揮命令系統についてはということでございますけれども、現在も今年度道路維持作業員10名を雇用しております、5名ずつの2班に分かれて作業のほうをやっております。直接は建設課の職員が1名ずつ一つの班に張りついて、班員、作業員等を指導しながら作業のほうを行っているところでございます。

○議員（9番 野口 昌作君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） あの、その作業員の方がやられたでないかと思ったりするわけでございますけれども、この羽田井のですね、上側のほうから汗入農免というのが大山の今在家のほうまで行く道路がございます。そのですね、大山、あの、赤碓大山線ね、赤碓大山線のところから入ってきて、草刈りがしてございますわ。これ恐らく町の管理の中で草刈りされたでないかと思ったりしとりますが、この、この前の一般質問の中で、せめて草を側溝に落とさないように、側溝に、もう並べて、橋をかけるように並べてしまっているということから、そういうことのないようにしてくださいという話の中で、きちんとこの仕様書の中にそういうことを、それは取り除くんだというようなことを書き込んだ仕様書にして、そういうことのないようにするというような一般質問での答弁があったわけでございますが、こないだごろその汗入農免の草刈りの現場を見てみますと、側溝にずっとかかっている状態でございます。取り除くというのが、ちょっと側溝からよけりゃいいわけですけども、なかなかやってないのかなあというぐあいに感じたりしたわけでございますし、それから県道の話は、県道の話になるわけでご

ございますが、旧赤碕町のほうの県道はですね、非常にこの、道路側溝もきれいになります、旧赤碕。羽田井のところであの、町境になるわけでございますけれども、旧赤碕のほうはですね、赤碕大山線でもきれいな側溝でですね、本当に違うわけです、管理状況。

そういうようなこともあったりするわけでございますけれども、そういう指揮命令系統の中で、今言いましたようなあの、汗入農免についてですね、どういうようなことでそういうことになった、いるかということをちょっとお尋ねいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当課よりお答えさせていただきます。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 汗入農免の側溝についてということですが、昨年の議員御指摘のとおり、一般質問でございましたように、仕様書のほうには、側溝のほうに落ちないようにするというのを明記させていただいて業者委託のほうはさせていただいてるところでございます。本町職員でやります道路維持作業のほうにつきましては、改めてこちらのほうの指揮系統等を改めて再確認しながら、そういったことがないように指導していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議員（9番 野口 昌作君） はい、議長。これで一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで野口昌作議員の質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 続いて、5番、大原広巳議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。そうしますと、きょうは2問質問を用意しております。新町長のもとで初めての質問になりますが、竹口町長はですね、簡単明瞭にですね、ずばずば、ずばずば答えられますので、質問の長さの割には答弁が短くて皆さん時間が残ってしまうような格好です。私も、きょう1時間のつもりでございましたけども、1時間は使わないのかなというふうには思います。（発言する者あり）入ってますかいね、入ってる。（「はい」と呼ぶ者あり）

そうしますと、最初の質問に移りたいと思います。

少子化対策についてということで、3問質問を用意しております。

ちょっと質問の前に前説を言います。

少子高齢化がますます進んでいく中で地域のにぎわいを失わないためには、やはり出生数ですよ、新生児の出生数の推移を1年1年見ていかなくてはいけないんじゃないかと感じております。私、1年に1遍はですね、この少子化のことについて質問をずっ

と続けてきました。竹口町長に質問するに当たってですね、竹口町長もですね、選挙戦の最中にも、やはり少子高齢化の対策はまず最初に取り組む重要な課題だというふうに常々言っておられました。私も、少子高齢化、特に少子化問題はですね、もう土俵際っていますか、手をこまねいてはもう発展がない、他の分野にも悪い影響を与える避けて通れない大事な問題だというふうに思います。きょうはですね、新町長の思いとですね、今後の構想について聞いていきたいというふうに思います。

そうしますと、問いを読みます。少子化対策について。1、最近5年間の出生数の推移は。2、若者の婚活の現状は。3、3世代同居をふやす住宅改修支援の現状は。以上3点です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 大原議員の3点の御質問にお答えをいたします。

1時間かからないんじゃないかというようなお話がありましたけれども、ぜひともこの少子化対策についてしっかりと議論を深めていきたいなというふうに思っておりますので、忌憚のない追及質問をお願いいたします。

まず1点目、初めに、最近5年間の出生数の推移はとの御質問ですが、平成24年度は80名、平成25年度は105名、平成26年度は84名、平成27年度は119名、平成28年度は104名です。

2点目、若者の婚活の現状はとの御質問にお答えいたします。

平成24年度より、町内の各種の団体が実施される婚活イベントの開催経費について支援を行っております。近年の開催状況であります、平成27年度には、登録団体による婚活イベントを5回実施し、82名の参加で11組のカップルが成立、平成28年度には、婚活イベントを3回実施し、52名の参加で4組のカップルが成立しております。今年度につきましては、4月に開催され、結婚したい30代の男女19名の参加がございました。

なお、3点目の御質問の3世代同居をふやす住宅改修支援につきましては、行っておりません。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。そうしますと、関連質問をしたいと思います。

最初に、1番で聞きました最近5年間の出生数の推移はということで毎回定番で聞いておりますが、この推移を見ますとですね、過去5年間のうちに100名を切って80名台が2回ですけども、残りの年は100名を超しております。大山チャンネルなんかでもちょっとしたプチブームということで、ベビーブームじゃないかという番組が半年ぐらい前かな、流れておりました。あの、さっき、先ほど近藤議員がですね、出生数は

どれぐらいはないといけんじゃないかという質問をちらっとされました。私も、これ見とりますと、27年度は119名ということで、ちょっとこの5年間の中では突出した数字ですけども、ならしてみると100人ちょいというこの平均だと思います。

あの、先ほど小学校、中学校のこともあって、どれぐらいが目標あるいは最低限どのぐらいの出生数がないと今の体制を維持できないのかなというふうにあの、考えるわけです、私も近藤議員と同じようにですね、できれば150名あるいは少なくとも百二、三十の辺が維持できれば、当面は今の体制が維持できるんじゃないかなという、ないかなというふうには思います。竹口町長はどれぐらいを目標にこれから少子化対策に取り組まれるのでしょうか、お考えをお聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。出生数の大体最低ラインについてのお尋ねですけども、その全体、何をもってその出生数の目標をつくるかということにもなってきますし、先ほどの近藤議員の質問のような議論の中にあつたような、各小学校、中学校の維持というようなところを主眼に置いて出生数の目標をつくるのであれば、町内全体で百何十人というよりは、各旧町ごとにどれぐらいというような数値目標も必要かと思ひます。で、全体としましては、議員御指摘のとおり、また、近藤議員御指摘のとおり、百二、三十あれば、150ぐらいまでふえればいいなというところですけども、現状としては、この100前後で推移しているものを100以上で維持をするような取り組みをしていかないと、町内全体としてもなかなかいろいろなものが成り立っていないのかなというふうに思っております。

○議員（5番 大原 広巳君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。出生数を維持する結果をですね、維持するためには、少子化対策としていろんな切り口の施策を満遍なくやっていかないと、これこの事業をしたからすぐ出生数に反映して、特効薬みたいなそういう事業は当然、あれば当然今までやってるんでしょうし、ないと思いますので、いろんな切り口でトータルで少子化を食いとめていくというのが妥当だろうというふうには思ひます。

それでですね、少子化対策は大きく分けるとですね、2つの柱があると思ひます。1つはですね、新しくカップルっていいですか、新しく新生児、家庭を持って子供をつくるカップルをふやすというのが1つでしょうし、もう一つは、今が子育て世代で子供を育てておられる家庭にですね、もう1人子供をふやしてもらう、いわゆる多子化で出生数をふやすという、大きく分けるとこの2つに分けれると思ひます。

それで、2つ目の質問でも聞いとります婚活ですよ、これは最初のほうのあれで新しく子供を産む世代というか、新しく産む、子供さんをつくる夫婦っていいですか、世代をふやしていく方策であります。

多子化のことはまた後で言いますけども、この新しく夫婦になってこれから子供をつくっていかれるという夫婦をふやす、行政としてどこまでできるかわかりませんが、出会いの機会を今は婚活の支援団体に支援をするという形ですね、行政はお手伝いしとるわけですけども、個人情報と言うようになってからでしょうか、あんまり大っぴらに婚活の会をするから集まってくれというような形でPRができない分ですね、ほとんどの方が行政が支援してその婚活の会をやとるんだということのね、周知がまだまだ足らんのじゃないかというふうに思うわけですね。

それで、前の琴浦町がですね、農業委員会が婚活の会をしばらく、これは農業青年に特化した会でしたけども、しばらくやとったのを農業委員会だけでは大変だということで役場のほうに戻す形になって、行政が今度は主体となって婚活の会をやるようになっております。県のほうもですね、いろんな課がやり始めて、公務員に特化した婚活の会はどうなんだというふうな、変な意味の話題も出たりなんかして、県のほうとしてもですね、やっぱりこの若い男女の出会いの機会をですね、ふやす方策を一生懸命やとります。竹口新町長に、行政としてですね、あの、そのやりたいという団体にお金を出すだけじゃなくて、1年に1遍ぐらいは、あの、町っていいですか、課としては企画情報課になるかもしれませんが、行政が主催となって、あの、この出会いの会を、毎回、前の町長のときにも言とったわけですけども、せっかく若い子育て世代の中心の町長になりましたんで、改めて行政が先頭に立ってそういう出会いの会ができないかなということをお聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。行政主体でそういう婚活イベントあるいは婚活に関するものをできないかというところでありまして、現状としては、行政主体でやっていくような考えはありません。

理由としましては、現状さまざまな団体に対して支援をしておりますが、やはりですね、回を重ねていくと、それぞれの団体にもノウハウみたいなものがたまってきてですね、その経験値によって、じゃあ、より成立、カップルが成立する率が高まるようなものを開催するにはどうしたらいいかといったものですとか、いろいろなアイデアあるいは現状の課題なんかがあるところにたまっていてると思いますので、そういったものを活用していくのが、今後の婚活あるいはその未婚率の上昇の対策になるのかなというふうに思っております。ただですね、その婚活もイベント中心のものがほとんどですが、そのイベント中心のものが本当にいいのかということも含めて、今後のやり方については見直しを含めてしていきたいなと思います。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、わかりました。これで終わりということは当然あ

りませんし、毎年これはやっていかにゃいけん事業ですので、あの、また企画情報課のほうでですね、またこういういい結果が出てうれしいニュースがあったということがあればですね、またカップルが成立してですね、結婚にまで至ったということであれば、またそれも事業報告で、当然名前は言えないとは思いますが、結果としてまた御報告してもらって、行政も一枚かんでいるだ、かんでいますということをお願いしていただきたいなというふうに思います。

そうしますと、次の質問にします。

それですね、3番目に、あの、3世代同居の話を書き取りました。そうですね、3世代同居の話の前に、すいません、ちょっと戻りますけども、さっき2つ言いました後半のほうの多子化のことについて、ちょっと先にちょっと1問質問したいと思います。

多子化ということで、普通は平均的にいえば、お子さんが2人おって、3人目あるいは4人目という形ですね、多子化を促すことで出生数の増加に寄与すればいいじゃないかということですね、これもちょうど1年ちょっと前ですけども、旧大山町で第3子以降の子供さんに、生まれたときから就学までのこの6年間にですね、3回に分けて100万円を進呈するという、合併と同時にやめてしまった事業なんですけども、これと、今回あの、質問では直接は書いておりませんが、小・中学校のですね、給食費を半減するという事業を予定されてますよね。これも広い意味で少子化対策あるいは子育て支援策で、広い意味では子育て世代を支援する形になるということだと思いますので、この多子化ですね、第3子、第4子を産んでもらう起爆剤みたいな格好で旧大山町はやっておりまして、それなりに結果は出たというふうに僕は思っています。

ぜひともこの少子化対策の中で、どうしても新しいカップルをとというふうに思いがちですけども、既存の今子育てしてる竹口町長の世代の人たちがもう1人頑張ってみようかというふうに思える、言い方は悪いですけども、エンジンをぶら下げるような何か考えてみるきっかけにしてもらいたいなというふうに思いますので、これは検討してみてくださいでしょうか。もし竹口町長がですね、この多子化について何か考えておられることがありましたら、この旧大山町の事業のことばかりじゃなくて、もしプランがありましたらお聞かせ願いたい。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

少子化の原因になってるもの、さまざま今あると思います。1つには、今の働く世代の経済的な負担感、子供が1人ふえると、この先どれぐらい経済的な負担がかかるんだろうかというような不安、そういったもので少子化になっていること、それから全国的にも、先ほど婚活の話もありましたが、晩婚化が進んでいて、なかなかたくさん子供を産み育てられないような状況にもなってきていると。さまざま原因があるわけですけども、そのうちの経済的な負担感をなくして子供を1人でも、もう1人こう頑張ってみ

ようかというようなふうな環境にするためにも、私が掲げております保育料の無償化ですとか給食費の無償化、高校生の通学費助成等はある程度効果が出てくるのかなというふうに思いますが、最初のほうにもおっしゃられましたが、これにはもう特効薬みたいなものはなくてですね、今それをするから爆発的にふえるというようなことはないわけでありまして、今後の推移等を見守りながら政策等を考えていきたいなというふうに思っております。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。そうしますと、わかりました。ぜひとも町長にはですね、これでいいということはありませんし、いろんな切り口ですね、これからも少子化対策進めていただきたいなというふうに思います。

それで、あの、3つ目の質問にですね、3世代同居の支援の、あの、住宅支援の話を載せております。僕もうかつでしたけども、去年この話をしたときにはですね、個人用住宅の改修の支援事業というのが、最終年でしたけども、ありまして、該当になれば、そっちのほうの事業を使ってくれというふうに1年前は町長は答えとりました。それでですね、国や県のほうもですね、いろんなことで3世代の同居をふやしたいという方向のもとにですね、調べてみると、ちょこちょこ住宅新築あるいは改修したときに補助金が出るという事業があります。

それでですね、鳥取県の場合、ちょっと調べてみました。そうしましたらですね、名前としては、とっとり住まいる支援事業という事業なんですけども、これはちょっと県全体で7,000万の事業で補正で上がりますが、その3世代同居云々に特化した事業ではなくて、県産木材の推進だとか、いろんなことにかこつけた中の一つの項目として、子育て世代、子育て世帯の支援あるいは3世代同居の支援ということで、新築、改修したときに、10万とか5万とかいう単位なんですけども、県のほうも補助金をつくります。それから不動産取得税とかの面でも、3世代同居で申請をすれば幾らか減税になるような要綱もつけ足して書いてあります。

それでですね、やはり大山町に限った話ではもちろんありません、全国的に少子高齢化は進んだるわけですし、あの、大山町も、不滅の課題と言ったらおかしいですけども、常に毎年毎年検証しながら打つ手は打っていかんやけんというふうには思っております。

そうしますとですね、また、ちょっと1番にちょっと戻って恐縮ですけども、ちょっと時間がありますんで、さっき出生数をどれぐらいにという、いろいろな根拠によって数字は違ってくるとは思うんですけども、あの、まだ町長や教育長はかわったばかりですんではっきりしたことは当然言えないんでしょうけども、1年前に聞いたときにはですね、やはり中学校は、各大山、名和、中山で当面は維持をするというふうにはっきり断言されました。きょう、また1年先まで聞く機会もありませんし、もちろんかわら

れたばかりではっきりしたことは言えないのかもしれませんが、質問には出して
おりませんが、中学校の統合問題はどのように考えておられますでしょうか。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長、今、通告にはなかったですけど、もし答えられたら
答えて、答えられなかったらそれでいいですけど。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

中学校に関しては、現状の旧町ごとの中学校を維持していきたいなというふうに思っ
ております。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。すみませんでした。

そうしますと、2問目の質問に行きたいと思います。

大山インターチェンジの工業団地、皆さん御承知とおり、御承知のとおりですけども、
最近あの大山インターの近くがにぎやかになっていますか、騒々しく実はなっとります。
こういう場で言っているものかどうかわかりませんが、コンビニエンスストアが今
建ちかけております。それからですね、大山口南団地が造成が終わって募集も終わって、
今3軒か4軒くらい家がもう完成間近になっていますか、建てかけております。それから
大山支所の上手にも住宅団地をつくる計画も動きつつあります。それでですね、さらに
言わせてもらいますと、大山佐摩停車場線、いわゆる大山道路ですよ、その大山道路
が、また中高集落の下手のところから平木のほうを迂回して平のほうにいわゆる県道の
バイパス化が、これも着々と前に動き始めております。

ということで、大山インター工業団地がですね、ますます利便性はもとより、あの、
その辺を通る人って言ったらかわいいですけども、注目されるわけですよ。それで、
今の状況としては、次々誘致が決まってですね、工場が並んでるという状況じゃなくて、
草が生えて、いわゆる管理地状態に今はなっております。それで、大山インターを走っ
ておりますと、歓迎の垂れ、垂れ幕っていうか、歓迎の看板がすごく寂しく見えるんで
す、大山インター工業団地へようこそという、あの、看板が出ておりますけども、寂し
く見えます。それでですね、きょうは、私もあの、あの地元の関係者の一人としてです
ね、この大山インター工業団地の今後あるいは現況も踏まえて、今後どのように進展さ
せていった方がいいかなということについて町長と議論したいなというふうに思って問題
に出しました。

そうしますと、今言いましたように、1つ目として、企業誘致についてで、大山イン
ター工業団地の現況はということで町長に1問質問しております。

それから、2つ目として、若者の起業の現状はということで、「起業」の「起」の字
が違うと言やあ違うんですけども、1問目の質問で少子化で若い人が移住定住でやって
くるためには、地元でですね、やはり雇用の機会がふえるということが避けて通れん、
これも必須の条件だと思います。それで、大山インター工業団地はですね、その雇用の

機会を、一気に言って言ったらおかしいですけども、まとまって雇用の機会をふやす可能性のある企業誘致ができる場所として所有しておりますので、ぜひともいいふうを持っていきたいというふうに思います。まずは現状について町長に伺います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 大原議員の2つ目の質問、2点にお答えをいたします。

まず1点目、大山インター工業団地の現状はという質問にお答えします。

まず、平成20年から21年度に、3区画、3.3ヘクタールの整備工事を行い、平成22年度から販売開始をし、平成24年度と平成28年度に各1社ずつ進出しております。現在、具体的な進出の話はありませんが、地下に農業用水の水源があるため、関係集落への理解を得ながら進めてまいりたいと思います。

2点目、若者の起業の現状はという質問にお答えします。

大山町内の30代から40代において商工業で起業された方は、平成26年度が3人、平成27年度も3人で、平成28年度は5人でした。農林水産業で起業された方は、親元就農を除いて平成26年度が3人、平成27年度が9人で、平成28年度は6人でした。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。ちょっと2つの質問がですね、必ずしもリンクしない質問で一つのくくりにしてしまったので、別々にももちろん質問したいというふうには思います。

最初に、大山インター工業団地、工業団地っていうか、まあ工業団地か、について追加質問したいと思います。

今、1社あの、名前を出していいかどうかわかりませんが、物流関係のね、あの、会社が入っております、外から見てるだけですけども、着々と、何ちゅうですか、従業員がふえて車の台数もふえてですね、順調に雇用が拡大してるんじゃないかなというふうに思います。あの、選挙絡みですけども、ちょっと寄って話を聞いたところでは、かなり大山町出身の方も従業員でおられるようですね、いい地元の雇用の機会になっています。

それです、あの、新聞等で載っとりました米子のですね、物流団地がですね、あそこ、インターの、あの、米子の東インターの近くですかいな、ほぼ完売状態です、米子市の予算に区画を拡張して、南側のほうらしいですけども、造成をしたいというニュースがあって、あの、ここ大山インターとですね、まあその、競争でもないですけども、今、米子のそういうところがいっぱいになってきたということで、ここ大山インターに、何ちゅうですか、問い合わせっていうか、また米子の物流団地もまた拡張し

て、また大きなところ、大きなスペースをとられてしまうと、大きさでは勝てませんので、あの、比較にならないかもしれませんが、今はとりあえずもう物流団地がいっぱいということですね、大山インターの、変な意味、売り出しっていうか、引っ張ってくるにはいいチャンスだと思いますので、どんなものでしょう、あの、今、問い合わせとか商談中とかそういう、言える範囲で結構ですけれども、動きがありますかな。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当課よりお答えさせていただきます。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 議長、観光商工課長。

○議長（杉谷 洋一君） 持田観光商工課長。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 大原議員の質問にお答えさせていただきます。

具体的な進出の話は、先ほど町長が答弁したとおりありませんが、コンサルタント系の会社を通じての問い合わせというのは一、二件最近あっております。具体的な業種とか企業名とかは聞いておりませんが、そういった問い合わせは若干は現在あります。以上です。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。そうしますとですね、答弁の中に、農業用水の水源云々ということがありまして、下流の集落の皆さんにあの、御迷惑をかけた経緯がちらっと載っておりましたが、あの、これもですね、高田のこの旧名和町のほうのですね、企業が進出してきたときにもそうだと思いますけども、ちゃんと関係集落のですね、との間で、あの、いいぐあいに話し合っていますか、段取りを持ってやれば何も問題はないと思いますので、ぜひとも前向きにですね、あの、この大山インター工業団地をですね、山陰道にかけておって、いつまでも、何十年もあそこによろこそ云々の看板を立てるようじゃもったいないですので、ぜひとも企業進出のことで関係機関、関係の課のほうにはですね、あの、頑張ってくださいなというふうに思いますし、町長も、いろんな機会に、当然、新しく町長になっていろんな会合に出られると思いますので、ぜひともあの、大山インターの宣伝をですね、一緒にしてもらって、あの、ぜひとも、利便性抜群ですので、進出の云々のPRをですね、トップセールスマンとして、あの、町長にもお願いしたいというふうに思います。ちょっと質問という質問になりました。最後に、町長の意気込みを聞かせてもらって、この問題は終わりにしたいです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 工業団地のPRをしてくれというような要望だったのかなというふうに思いますが、あの、現状で工業団地に工場がなかなか進出しにくい、その所子

の工業団地に関しては、工場をこの先、誘致してくるのはなかなか周辺集落との関係で難しい面もあろうかと思えますし、それとは別としまして、今、県内有効求人倍率が非常に高い状態にあって、現在、大山町内にあります工場のほうでもですね、先月、社長、各会社の社長を訪問させていただいてお話を聞きますと、やはりですね、人が集まらない状態になっているということです。これ鳥取県に限った話ではないんですけれども、日本全国でそういうような状態にある中で、果たして、じゃあ、地方に工場を新しく出してくれるかという、なかなか難しいのかなというふうに思います。

さらにはですね、工場に、工場が悪いというわけじゃないんですけれども、工場に勤めたいという人が100%ではありませんので、県のほうとしまして、事務系の仕事にニーズがあるんじゃないかということで事務系の会社を誘致してきたら、すぐに求人、応募がたくさんあったというような話も聞いておりますので、工業団地に工場をつくる、工場ありきという考え方だけではなく、そういった求人のほうのニーズも考えながら会社を誘致してくるというような考えもあろうかと思えますので、いろんな角度で考えながら工業団地をPRしていきたいなというふうに考えております。以上です。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。すみません、工業団地という工業ということがどうしても頭にあると、工場というイメージにどうしてもなってしまうわけですけども、あの、今、町長が言ったようにですね、別に物をつくる工場ばかりじゃなくてもね、流通で荷物を右から左に動かす仕事あるいはそういう事務系の仕事とか、あの、何も物を生産するばっかじゃなくても雇用は当然確保できると思えますので、そちらも含めて広い選択肢でPRしてもらったなというふうに思います。

そうしますと、2つ目にですね、あの、若者の起業ということで質問をさせていただきました。あの、ぱっと見にはですね、確かに農林水産業関係で、起業っていいですか、独立して就農したということでしょうね、この中の考え方としては。起業、若い人が起業してですね、当然親方になって、またさらに部下っていいですか、新たな雇用を生んでいけば、それもまた一つ小さい会社を誘致したぐらい雇用としての機会は選択肢を町内につくったという意味で、それはそれですごく地域に貢献したことにはなるんじゃないかなというふうには思います。

それでですね、地域おこし協力隊の小谷君や青木さんらが起業する、卒業するという形で起業する形になって、いいことだし、これが起爆剤になってですね、次々起業される方がふえることを願いますし、あの、新たな規模拡大っていいですか、事業拡大で地元のまた雇用の機会がふえれば、なおのこといいなというふうに思います。

あの、この質問に出したのはですね、あの、このことのアピールの先がですね、県内っていうか、県外、外から移住してきた人が中心になってるのか、それとも、町内で今まで仕事しとったけども一念発起して起業したんだという人と、どんなもんですかいな、

どのような割合なんでしょうか、お聞かせ願います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当課が把握してるかどうかはわかりませんが、担当課から答えさせていただきます。

○観光商工課長（持田 隆昌君） 議長、観光商工課長。

○議長（杉谷 洋一君） 持田観光商工課長。

○観光商工課長（持田 隆昌君） はい。質問にお答えします。

町内の方が起業されたのが大体半分以上ということで聞いております。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） はい。行政も、あの、何ちゅうますか、支援してですね、起業して、それが町の活力、産業の一助になるべくこれを進めて、すごく町全体の活性化っていいですか、ということに大いにこのことは寄与しとると思いますので、これから町のにぎわいをふやす意味で、この取り組みもですね、国から、国っていいですか、国の事業で始まった支援事業かもしれませんけども、ぜひともこう町内の、この1300年が目の前に来ておりますので、この起業で、のこともですね、開山1300年の関係で小谷君らが活躍もする場面もあるんじゃないかなというふうには思います。

最後になりましたけども、あの、この起業することで開山1300年にどのように寄与していくのか、また、関連づけて盛り上げていくふうにしていくのか、町長が考えをお持ちでしたら最後に聞いて、終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 起業と1300年ですか、なかなか、急に来ましたので、そこを結びつけての考えというのはぱっと思いつきませんが、やはりあの、1300年祭で目的とするものというのは、地域の、観光を通じての地域の経済の活性化ですので、そこに訪れた観光客が地域でどういうものを体験するかというのは、そこで働く、あるいは商売をされる商工業者の方たち、あるいはサービス業をされている方たちの提供するものかなりの部分左右されると思います。大山町の観光において現状がまだまだ不十分というのであれば、やはり新規で起業していただいて、観光客向けにサービス、商品等を提供していただく事業者さんが少しでもふえると、それが、ひいては観光客の満足度につながって1300年祭全体の成功にもつながるんじゃないかなというふうに思っております。

○議員（5番 大原 広巳君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大原議員。

○議員（5番 大原 広巳君） これで終わりにします。

○議長（杉谷 洋一君） これで大原広巳議員の質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩いたします。再開は2時25分いたします。

午後2時15分休憩

午後2時25分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

次に、13番、岡田聡議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 最後になりました。お疲れでしょうが、1問だけですの
で、よろしくお願いいたします。

私は、町長の政治姿勢を問うということで、町長に1問だけ用意しとります。

県下で最も若い町長ということで注目を集めている竹口町長、その行政手腕はどうかと、大きな期待もあれば、一抹の不安もあるのが大方の町民の気持ちだと思いますが、きのうからの一般質問の答弁を聞いとりますと、きのうなんか特に担当課長に振ることなく一人で答弁しておられる。よどみなく簡潔にきばきと答えていらっしやると、非常に好感が持てたんじゃなかろうかと思います。また、きょうの日本海新聞ですが、大きく大山町の高校生通学費2分の1補助ということで出ておりました。大山町のPRになったのではないかと考えておるところでございます。若さを武器に、慣習にとらわれることなく、思い切った施策の実行も時には必要と考えますが、以下の項目について質問いたします。

(1)最大の課題をどう捉えているか。その改善、解決策は。

(2)子育て支援で無償化や助成が打ち出された。これまで財源問題とか公平性とかで実行されてこなかった経緯もありますが、継続的な確保が、財源の確保が可能かどうか。

(3)行財政改革はこれまでも幾度となくやられてきましたが、思い切ったやり方でなければ成果は上がらないと考えますが、その手法はどうか。

(4)買い物弱者の利便性向上という公約がありますが、自動車運転免許証のない方々の利便性向上については、デマンドバスの見直しも含めて非常にニーズは高いと思います。具体的な改善策はどうか、質問いたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 岡田議員の質問にお答えをいたします。いよいよ一般質問も最後というところで疲れてるかと思いますがという質問をいただきましたが、質問というか、御配慮いただきましたけれども、そこまで疲れてはおりません。しっかり最後まで頑張りたいと思っております。

町長の政治姿勢を問うということで御質問をいただいておりますので、お答えをさせ

ていただきます。

まず1点目、最大の課題は、人口減少問題であると考えております。特に働く現役世代の流出により少子高齢化が進み、後継者不足や地域活動が継続できないなどの問題が発生していると考えており、その解決策として、現役世代が町外に出ていかない、あるいは町外から戻ってきてもらえる施策の充実が必要であると思います。

2点目、子育て支援で無償化や助成が打ち出されたが、財源の継続的な確保は可能かということですが、来年度以降については、現在の事務事業の見直しによる財源確保を主とし、県補助金及びふるさと応援基金を考えており、可能であると判断しています。

3点目、行財政改革の手法はということですが、費用対効果、時代にそぐわなくなったもの、既に役割を終えているもの等を考慮しながら決断していきたいと思っております。

4点目、買い物弱者の利便性向上、また、自動車運転免許証のない方々の利便性向上についてのデマンドバスの見直しも含めた具体的な改善策はについてですが、現在、デマンドバス運行開始から5年が経過し、年間7,000人以上の方に御利用いただいておりますが、今後、高齢化がさらに進展していくことが見込まれていることから、外出するための公共交通の需要はさらに増加していくものと考えております。御承知のとおり、デマンドバスの利用は、タクシーの利用のように乗車予約を行い、バス停から目的地までの利用となり、利用者の皆様には少し御不便をおかけしている部分があると思います。見直しが必要な部分につきましては、タクシー助成制度の見直しも含め公共交通会議で検討し、町民の皆様がさらに外出しやすいようにしてまいりたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 最大の課題は人口減少問題でということでございます。

どこの自治体とも人口減少対策に非常に頭を悩まし、力を入れてると思いますが、これまでの質問にも出ました、大山町の場合、働き手が米子のほうへ、米子市のほうへ転出するというのが一番多いそうですので、ここらあたりを何とか、高速道路も開通していることですし、非常に交通の便も、便利もよくなってるわけですが、何とか大山町内に住んでいただくような施策、午前中の町長の御回答には、答弁にもございましたが、私も、賃貸住宅等を町内にできれば、行政の主導で宅地造成とか賃貸住宅、そういうものが進めば、もうちょっと定住化、ふえるんじゃないか、米子へ出る人が少しでも宅地の安い大山町に住むのではないかと、そういうように考えておりますが、この点、この前、答弁もございましたが、もう一度お願いいたします。

それから、選挙公約の保育料無料化ということを見て、大方の保護者の皆さんは多分全面的に無償化というようなことを考えられたと思いますが、これは財源問題もありますんで、当面は3歳児以降ということでございます。

それと、高齢者の中、方々には、意外と、例えば若い人の支援、子育て支援、そういうことで無償化等いろいろ進めるわけですが、そういうことで、高齢者の福祉に回す金を削られるのではないかという、そういう一抹の不安があると思いますが、その点についてのお考えをお願いいたします。

それから、日吉津村、鳥取県下でただ1村、人口増を続けていますが、村長のお話では、意外と小学生はふえてないという、横ばいでずっと来ているということで、ということは、ふえてる人口は子育て世代でなくて意外と中高年という形ということかなという考えられますが、きのうの一般質問にもございました。40歳で助成制度、住宅助成制度に差をつけるというようなこと、この日吉津村の例を見ても、結構40代、50代の移住定住者も、場合によっては、助成制度によってはふえるんじゃないかというような感じがいたしますが、もう一度お願いいたします、御答弁。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

議員御指摘のとおり、米子への転出というのは非常に多い状態です。大山町外への転出のうち、7割以上が米子への転出だというふうな調査結果も出ております。米子へ転出される方ですけれども、想定としまして、主に米子周辺で仕事をされているのかなというふうに思います。御質問の中にもありましたけれども、今、高速道、山陰道も大山町内、全線開通しております。米子へのアクセスも非常によくなってきている。そういう状態であれば、仕事はそのまま住居だけ大山町にというような方も出てこられるのかなというふうに思っております。そのために宅地造成ですとか賃貸住宅をふやすような取り組みは必要だというふうに思っております。

それから、3歳児、3歳以上児の無償化、保育料無償化についてですけれども、3歳未満は、財源の問題というよりは、職場環境、保育現場の問題です。保育士を現状の数で3歳未満の保育料無償化をすると、預ける人がふえて保育士が足りなくなるというようなことも考えられますので、そこを見きわめながら順次やっていきたいなというふうに思っております。また、その財源に関しまして、子育て世代に向けての施策がふえるから高齢者向けの施策が減るというようなことは考えておりませんし、無駄な事業というのは、それ以外のところで探していきたいなというふうに思っております。

日吉津村が、人口増加をしているのに小学生が、の数が横ばいだというふうな御質問もありました。私もですね、今月初めの日吉津村でありました12時間ソフトバレーに参加した際に岡田議員と出会ったわけですけれども、やはり日吉津村に行きますと、何か若い人が多いような雰囲気があります。で、日吉津村も人口増加をしているというふうにありますけれども、小学生の数が横ばいなのは、さまざま理由があろうかと思いますが、決してその、高齢者がふえているから小学生が横ばいなのではなくてですね、その増加している数にもよるのかなというふうに思いますし、あるいは小学生に上がる前

に出ていく人も多かったりするのかなというふうに思いますが、ここは想像ですので、そういった日吉津村の例なんかも参考にしながら今後の政策も考えていきたいなというふうに思っております。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 子育て支援の財源に県補助金や、あるいはふるさと応援基金ということを考えていらっしゃるようですが、総務省の通達で、大山町、ふるさと応援基金がふえてるようですが、総務省の通達で景品は3割以下という強い指導が来ているようで、これからはそんなにふえることはなかなか難しいんじゃないかと思います。

そういうところで、本当に大山町を何とかいろいろ名目をつけて、どういう政策に応援していただけないかというような、ふるさと応援基金をされる方が何とか大山町を応援してやろうというような考えになるような、そういう目的とか何か考えていただきたいんですけども、その点1点と、それからデマンドバスの関係ですが、現在、地区ごとに500円、地区内は500円、地区を越すごとに500円加算で1,000円、それ以上というようなことで、非常に割高感があるように考えます。その点も含めて何とか改正していただきたいという要望は多いと思うんですが、その点もひとつお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） まず、ふるさと納税に関してですけれども、返礼品の3割上限というような通達が出ておりますので、議員御指摘のとおり、大山町を応援したいなというような寄附のメニューをつくっていききたいなというふうに思っております。具体的なものに関しては、先ほどの野口議員への答弁でもさせていただきましたが、まだ今、案を練っておるところでございます。もしこういうものはどうかというのがあれば、ぜひまた個別にでも御提案いただけたらというふうに思います。

それから、デマンドバスの地区を越えての利用がとても割高感があるというようなお話ですけれども、料金の設定に関しましては、公共交通会議等で検討をする必要があると思っておりますし、全体的な制度も含めまして、今後、使いやすいように見直しをしていきたいなというふうに思っております。以上です。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 行財政改革について、これから費用対効果、時代にそぐわなくなったもの、役割を終えているもの等を考慮しながら決断していきたいということでございますが、具体的に何か検討会等をつくってやられるのかどうか、どういう手法でこれを達成、検討されていくのか、お伺いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。行財政改革に関しては、継続的にやっていくというのが基本ではありますけれども、一番初めに大きい段階としましては、来年度の当初予算を作成する段階かと思います。その際に、どのような見直しの手法がいいのかは、改めて検討したいと思っておりますけれども、やはり今、費用対効果等を検証するにしましても、客観的な検証する数字等がなかなか設定されていないものも多くありますので、そういう費用対効果の検証ができそうなものは、しっかり数字の設定等をして費用対効果を確かめていきたいと思っております。

また、近藤議員の御質問のときにもお答えをさせていただきましたが、行政内部だけの検討あるいは議会だけの検討ではなく、広く住民さんにも何らか意見等を出していただけるような場づくりもしていきたいと考えております。以上です。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） それから、具体的に、この通告はしてないんですけども、人口減対策あるいは地域活性化でいろいろその、若い世代の移住定住促進もあるんですけども、結構定年を迎えられた方々、そういう方々の能力とか力を引き出すよう、何か役割を担っていただけるようなその仕組みというものがあれば、もっともっと地域が活性化していくんじゃないかと思っておりますけども、ちょっと通告にないんですけども、その点どうお考えかどうか、伺いたい。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。通告にないということですけども、私の考えを問うものでありますので幾らでもお答えをさせていただきたいと思いますが、定年後の方々の活動に関しましては、シルバー人材センター等もありますけれども、あの、それにつけ加えまして、地域でもっと活躍していただけるような場づくりをしていく必要があるかと思っております。具体的にこういう仕組みをとというのは今ないんですけども、地域自主組織等にもどんどん御参加いただきたいなというふうに思っておりますし、今まで、能力、今まで培われてきた能力を地域の還元することで、その御本人さんにとってもプラスになると思っておりますし、地域にとってもプラスになるような、そういう仕組みができればいいなというふうに思っております。以上です。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） あの、若い町長ということで、これまでなかったような思い切った施策の実行もできるのではなかろうかというような期待もしているわけですが、何かそういうもの、来年度予算見てくれとおっしゃるかもしれませんが、何かこういうことをやりたいというようなことがございましたら、最後をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 若い町長なので、これまでにない施策を何か考えがないかという事ですけれども、いろいろと思うところはあるんですが、これまでにない施策をやりたいと言いますと、なかなか議会の賛同を得られるかどうかということも心配な点がありまして、今後、これまでにないような施策を提案する際には、ぜひとも岡田議員にもお力添えをいただきたいなと思っております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長、終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで岡田聡議員の質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 以上で本日の日程は終了しました。

次回は、6月26日月曜日午後1時から議員討論会を開催するとともに、6月28日水曜日に本会議を再開します。定刻9時30分までに本議場に集合してください。

本日はこれで散会します。御苦労さんでした。

午後2時48分散会
